

工 事 名	2 1 精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備建築工事		章 項 目	特 記 事 項	
特記仕様書	I 工事概要				
	1. 工事場所	埼玉県北足尾郡伊弉野大字小室字大1818番地2 6 用地地 指定なし			
	2. 敷地面積	30.159 98 m ²			
	3. 工事種目 (建物概要)	一階	鉄骨造	一階建(地下1階)	
		二階	鉄骨造	二階建	
		三階	鉄骨造	三階建	
	4. 工期	契約日から令和 4 年 5 月 31 日まで			
	5. 工事範囲	※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。 ○「3. 工事種目」のうち、 ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。			
	① 仮設工事	※工事範囲全て			
	② 土工	※工事範囲全て			
③ 地盤工事	※工事範囲全て				
④ 仮設工事	※工事範囲全て				
⑤ コンクリート工事	※工事範囲全て				
⑥ 鉄骨工事	※工事範囲全て				
8 コンクリート・ALC・パネル・押出成形セメント板工事	※工事範囲全て				
9 防水工事	※工事範囲全て				
10 石 工 事	※工事範囲全て				
11 タイル工事	※工事範囲全て				
12 木工	※工事範囲全て				
13 屋根及びとい工事	※工事範囲全て				
14 金属工事	※工事範囲全て				
15 左官工事	※工事範囲全て				
16 建具工事	※工事範囲全て				
17 カーテンウォール工事	※工事範囲全て				
18 塗装工事	※工事範囲全て				
19 内装工事	※工事範囲全て				
20 ユニツト及びその他の工事	※工事範囲全て				
21 排水工事	※工事範囲全て				
22 舗装工事	※工事範囲全て				
23 舗装及び壁緑化工事	※工事範囲全て				
II 建築工事仕様					
(1) 質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉建築工事特別共通仕様書」及び「国土交通大臣官庁告示第100号(平成31年)第1号」による。					
(2) 標準仕様書で「特記」がなければ、以下に具体的な材料・工法・検査方法等「特記」している場合において、それが「特記仕様書」(発注者を含む)と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。					
(3) 特記仕様書の表記 ① 項目は、番号○印の付いたものを使用する。 ② 特記事項は、○印の付いたものを使用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを使用する。 ③ ○印と◎印の付いた場合は、共に使用する。◎印と※印の場合は、◎印と※印の両方を使用する。 ④ 特記事項に記載の()、()内の表示事項は、「埼玉建築工事特別共通仕様書」の該当項目、当該図表を示す。 ⑤ 特記事項に記載の()、()内の表示事項は、標準仕様書の該当項目、当該図表を示す。					
(4) 製造品名は、五十音と「株式会社」等の記載を省略する。また()内は製造品名を示す。 ⑥ 本工種において「標準」による標準品等の製造の標準に関する法(平成29年法律100号)に基づき、「環境物品等の調達推進方針(平成29年7月閣議決定)」(以下「調達基本方針」)による特定調達品目の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。なお、◎印は設計図書で定めのある品目を示す。 ⑦ 注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。					

8 コンクリート・ALC・パネル及び押出成形セメント板工事	1 補強コンクリートブロック造	ブロックの種類 前面形状及び圧縮強度 正味厚さ 12.5A呼び寸法(mm) 化粧の有無 適用箇所 備考 ※前面形状及び圧縮強度 正味厚さ 12.5A呼び寸法(mm) 化粧の有無 適用箇所 備考 ※前面形状及び圧縮強度 正味厚さ 12.5A呼び寸法(mm) 化粧の有無 適用箇所 備考	(8.2.2-9)
	2 コンクリートブロック 壁及び基礎	前面形状及び圧縮強度 正味厚さ 12.5A呼び寸法(mm) 化粧の有無 適用箇所 備考 ※前面形状及び圧縮強度 正味厚さ 12.5A呼び寸法(mm) 化粧の有無 適用箇所 備考 ※前面形状及び圧縮強度 正味厚さ 12.5A呼び寸法(mm) 化粧の有無 適用箇所 備考	(8.3.2-7)
	3 ALCパネル	壁の種類 壁の厚さ 壁の耐力 壁の耐火性能 壁の防火性能 壁の遮音性能 壁の防振性能 壁の防湿性能 壁の防虫性能 壁の防蟻性能 壁の防鼠性能 壁の防鳥性能 壁の防塵性能 壁の防汚性能 壁の防酸性能 壁の防塩性能 壁の防油性能 壁の防熱性能 壁の防凍性能 壁の防氷性能 壁の防雪性能 壁の防霜性能 壁の防露性能 壁の防結露性能 壁の防霉性能 壁の防菌性能 壁の防虫性能 壁の防蟻性能 壁の防鼠性能 壁の防鳥性能 壁の防塵性能 壁の防汚性能 壁の防酸性能 壁の防塩性能 壁の防油性能 壁の防熱性能 壁の防凍性能 壁の防氷性能 壁の防雪性能 壁の防霜性能 壁の防露性能 壁の防結露性能 壁の防霉性能 壁の防菌性能	(8.4.2-5)
	4 押出成形セメント板 (ECP)	パネルの種類 形状 厚さ(mm) 幅(mm) 工法の種類 備考 ※形状 厚さ(mm) 幅(mm) 工法の種類 備考 ※形状 厚さ(mm) 幅(mm) 工法の種類 備考	(8.5.2-5)
	9 防水工事	屋根防水 防水層の種類 防水層の厚さ 防水層の耐力 防水層の耐火性能 防水層の防火性能 防水層の遮音性能 防水層の防振性能 防水層の防湿性能 防水層の防虫性能 防水層の防蟻性能 防水層の防鼠性能 防水層の防鳥性能 防水層の防塵性能 防水層の防汚性能 防水層の防酸性能 防水層の防塩性能 防水層の防油性能 防水層の防熱性能 防水層の防凍性能 防水層の防氷性能 防水層の防雪性能 防水層の防霜性能 防水層の防露性能 防水層の防結露性能 防水層の防霉性能 防水層の防菌性能	(9.2.2-5) (表9.2.3-9)
	3 土工	掘削及び埋戻し 掘削の種類 掘削の深さ 掘削の傾斜 掘削の耐力 掘削の耐火性能 掘削の防火性能 掘削の遮音性能 掘削の防振性能 掘削の防湿性能 掘削の防虫性能 掘削の防蟻性能 掘削の防鼠性能 掘削の防鳥性能 掘削の防塵性能 掘削の防汚性能 掘削の防酸性能 掘削の防塩性能 掘削の防油性能 掘削の防熱性能 掘削の防凍性能 掘削の防氷性能 掘削の防雪性能 掘削の防霜性能 掘削の防露性能 掘削の防結露性能 掘削の防霉性能 掘削の防菌性能	(3.2.3)
	4 地盤工事	地盤の種類 地盤の厚さ 地盤の耐力 地盤の耐火性能 地盤の防火性能 地盤の遮音性能 地盤の防振性能 地盤の防湿性能 地盤の防虫性能 地盤の防蟻性能 地盤の防鼠性能 地盤の防鳥性能 地盤の防塵性能 地盤の防汚性能 地盤の防酸性能 地盤の防塩性能 地盤の防油性能 地盤の防熱性能 地盤の防凍性能 地盤の防氷性能 地盤の防雪性能 地盤の防霜性能 地盤の防露性能 地盤の防結露性能 地盤の防霉性能 地盤の防菌性能	(4.2.3)
	5 鉄筋工事	鉄筋の種類 鉄筋の径 鉄筋の長さ 鉄筋の耐力 鉄筋の耐火性能 鉄筋の防火性能 鉄筋の遮音性能 鉄筋の防振性能 鉄筋の防湿性能 鉄筋の防虫性能 鉄筋の防蟻性能 鉄筋の防鼠性能 鉄筋の防鳥性能 鉄筋の防塵性能 鉄筋の防汚性能 鉄筋の防酸性能 鉄筋の防塩性能 鉄筋の防油性能 鉄筋の防熱性能 鉄筋の防凍性能 鉄筋の防氷性能 鉄筋の防雪性能 鉄筋の防霜性能 鉄筋の防露性能 鉄筋の防結露性能 鉄筋の防霉性能 鉄筋の防菌性能	(5.2.3)
	6 コンクリート工事	コンクリートの種類 コンクリートの強度 コンクリートの厚さ コンクリートの耐力 コンクリートの耐火性能 コンクリートの防火性能 コンクリートの遮音性能 コンクリートの防振性能 コンクリートの防湿性能 コンクリートの防虫性能 コンクリートの防蟻性能 コンクリートの防鼠性能 コンクリートの防鳥性能 コンクリートの防塵性能 コンクリートの防汚性能 コンクリートの防酸性能 コンクリートの防塩性能 コンクリートの防油性能 コンクリートの防熱性能 コンクリートの防凍性能 コンクリートの防氷性能 コンクリートの防雪性能 コンクリートの防霜性能 コンクリートの防露性能 コンクリートの防結露性能 コンクリートの防霉性能 コンクリートの防菌性能	(6.2.3)

工事名	2 1 精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備建築工事		№	R02045	管理棟	和 興
種別	特記仕様書1		設計	R03.03	種目	一般建築工事種目等 200607 号
代表取締役	三 島 浩 一		図面	A-01	設計者	和 興 株式会社
代表取締役	三 島 浩 一		監理		監理者	和 興 株式会社
代表取締役	三 島 浩 一		監理		監理者	和 興 株式会社
代表取締役	三 島 浩 一		監理		監理者	和 興 株式会社

2 改質アスファルトシート防水
防水層の種類
種類 施工箇所 断熱材 防湿層 仕上塗料
AS-T1, AS-T2, AS-T3, AS-T4, AS-TJ
AS-I-T1, AS-I-J1
高日射反射率防水の適用
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
接着剤付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
改質アスファルト製造所の仕様による
5 ケイ酸系平塗防水
防水層の種類
種類 施工箇所 種類 施工箇所
C-U, C-UP
地下処理
コンクリートの打設箇所処理
打設後部分に対し、幅30mm、深さ30mmにV形にはずり、水洗い清掃した後、防湿剤の塗布を指定する材料を使用
型枠補修材はコーンが使用されている部位及び防水材の塗布面以下の外処理

6 シーリング
下表以外は、標準仕様書9.7.1による
ただし、外壁タイル接合部等のシーリングは11章に、カーテンウォールのシーリングは17章による
シーリング材の目地寸法
※標準仕様書9.7.3(1)(7)〜(9)による
外部に面するシーリング材の接着性試験
※接着剤の接着性試験
7 防水工事
7.1 防水工事
7.2 防水工事
7.3 防水工事
7.4 防水工事
7.5 防水工事
7.6 防水工事
7.7 防水工事
7.8 防水工事
7.9 防水工事
7.10 防水工事
7.11 防水工事
7.12 防水工事
7.13 防水工事
7.14 防水工事
7.15 防水工事
7.16 防水工事
7.17 防水工事
7.18 防水工事
7.19 防水工事
7.20 防水工事
7.21 防水工事
7.22 防水工事
7.23 防水工事
7.24 防水工事
7.25 防水工事
7.26 防水工事
7.27 防水工事
7.28 防水工事
7.29 防水工事
7.30 防水工事
7.31 防水工事
7.32 防水工事
7.33 防水工事
7.34 防水工事
7.35 防水工事
7.36 防水工事
7.37 防水工事
7.38 防水工事
7.39 防水工事
7.40 防水工事
7.41 防水工事
7.42 防水工事
7.43 防水工事
7.44 防水工事
7.45 防水工事
7.46 防水工事
7.47 防水工事
7.48 防水工事
7.49 防水工事
7.50 防水工事
7.51 防水工事
7.52 防水工事
7.53 防水工事
7.54 防水工事
7.55 防水工事
7.56 防水工事
7.57 防水工事
7.58 防水工事
7.59 防水工事
7.60 防水工事
7.61 防水工事
7.62 防水工事
7.63 防水工事
7.64 防水工事
7.65 防水工事
7.66 防水工事
7.67 防水工事
7.68 防水工事
7.69 防水工事
7.70 防水工事
7.71 防水工事
7.72 防水工事
7.73 防水工事
7.74 防水工事
7.75 防水工事
7.76 防水工事
7.77 防水工事
7.78 防水工事
7.79 防水工事
7.80 防水工事
7.81 防水工事
7.82 防水工事
7.83 防水工事
7.84 防水工事
7.85 防水工事
7.86 防水工事
7.87 防水工事
7.88 防水工事
7.89 防水工事
7.90 防水工事
7.91 防水工事
7.92 防水工事
7.93 防水工事
7.94 防水工事
7.95 防水工事
7.96 防水工事
7.97 防水工事
7.98 防水工事
7.99 防水工事
7.100 防水工事

7 アーチ、上げ裏等の石張り
取付け方法
内装空積工法
取付け金物
材質
※ステンレス (SUS304)
※引金物
※釘
※受け金物
※加工金物
※スライド式
※ロッキング方式
※吊金物及び化粘りボルト
取付け金物
※ステンレス (SUS304)6mmφ×80mm (加工物)
※吊ボルト
※ステンレス (SUS304)M10化粘り付付き
8 笠木、甲板等の石張り
取付け方法
内装空積工法
取付け金物
材質
※ステンレス (SUS304)
※引金物
※釘
※受け金物
※加工金物
※スライド式
※ロッキング方式
※吊金物及び化粘りボルト
取付け金物
※ステンレス (SUS304)6mmφ×80mm (加工物)
※吊ボルト
※ステンレス (SUS304)M10化粘り付付き
9 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置
※標準仕様書表11.1.1による
セメントモルタルによるタイル張り
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
10 内装空積工法
表裏仕上げ
表面仕上げの種類
適用箇所
A種
B種
C種
D種
E種
F種
G種
H種
I種
J種
K種
L種
M種
N種
O種
P種
Q種
R種
S種
T種
U種
V種
W種
X種
Y種
Z種
11 タイル工事
1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置
※標準仕様書表11.1.1による
セメントモルタルによるタイル張り
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
2 セメントモルタルによるタイル張り
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
3 有機系接着剤によるタイル張り
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
タイルの形状、寸法等
※標準仕様書表11.1.1による
12 木工事
1 表面仕上げ
表面仕上げの種類
適用箇所
A種
B種
C種
D種
E種
F種
G種
H種
I種
J種
K種
L種
M種
N種
O種
P種
Q種
R種
S種
T種
U種
V種
W種
X種
Y種
Z種
2 製材
「製材の日本農林規格」による広葉樹製材
「製材の日本農林規格」による針葉樹製材
「製材の日本農林規格」による広葉樹製材
「製材の日本農林規格」による針葉樹製材
「製材の日本農林規格」による広葉樹製材
「製材の日本農林規格」による針葉樹製材

3 造作用集成材
「製材の日本農林規格」以外の製材
施工箇所 樹種 寸法 (mm) 材面の品質 含水率 防虫処理 間伐材等の適用
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材
施工箇所 樹種 寸法 (mm) 材面の品質 含水率 防虫処理 間伐材等の適用
「集成材の日本農林規格」による化粧びり造作用集成材
施工箇所 化粧板の樹種 芯材の樹種 化粧板の厚さ (mm) 見付け材の面積 (mm) 見付け材の品質 間伐材等の適用
「集成材の日本農林規格」による化粧びり構造用集成材
施工箇所 化粧板の樹種 芯材の樹種 化粧板の厚さ (mm) 見付け材の面積 (mm) 見付け材の品質 間伐材等の適用
「集成材の日本農林規格」以外の化粧びり造作用集成材
施工箇所 化粧板の樹種 芯材の樹種 化粧板の厚さ (mm) 見付け材の面積 (mm) 見付け材の品質 間伐材等の適用
「集成材の日本農林規格」以外の化粧びり構造用集成材
施工箇所 化粧板の樹種 芯材の樹種 化粧板の厚さ (mm) 見付け材の面積 (mm) 見付け材の品質 間伐材等の適用
4 造作用単板積層材
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材
施工箇所 寸法 (mm) 表面の品質 (化粧加工の有無) 防虫処理 間伐材等の適用
「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材
施工箇所 寸法 (mm) 表面の品質 (化粧加工の有無) 防虫処理 間伐材等の適用
「単板積層材の日本農林規格」による構造用合板
施工箇所 厚さ (mm) 等級 芯材の種類 接合の程度 防虫処理 間伐材等の適用
「合板の日本農林規格」による普通合板
施工箇所 厚さ (mm) 等級 芯材の種類 接合の程度 防虫処理 間伐材等の適用
「合板の日本農林規格」による構造用合板
施工箇所 厚さ (mm) 等級 芯材の種類 接合の程度 防虫処理 間伐材等の適用
「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板
施工箇所 厚さ (mm) 等級 芯材の種類 接合の程度 防虫処理 間伐材等の適用

工事名 R20245 管理棟と 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備建築工事
設計 R03_03 監理 藤田 和典
特記仕様書2
株式会社フケタ設計
代表取締役 三浦 富男
本社 東京都中央区本町2-1-11 TEL.043(527)1111
代表取締役 三浦 富男
本社 東京都中央区本町2-1-11 TEL.043(527)1111
代表取締役 三浦 富男
本社 東京都中央区本町2-1-11 TEL.043(527)1111

14	ステンレスの表面仕上げ	「JIS規格日本製規格」による特殊加工化粧板					
		施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の形状	化粧加工の方法	防虫処理
2	アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	「パーテックボード」					
		施工箇所	表面膜の状態による区分	曲げ強さ	耐水区分	難燃性	厚さ(mm)
6	接合具等	諸金物の形状、寸法及び材質					
		施工箇所	表面膜の状態による区分	曲げ強さ	接着剤	難燃性	厚さ(mm)
7	防虫・防蟻・防虫処理	「防虫、防蟻処理」が施される構造物による製材					
		施工箇所	表面膜の状態による区分	曲げ強さ	接着剤	難燃性	厚さ(mm)
8	内装断熱工、床、窓等の木材	「防虫、防蟻処理」が施される構造物による製材					
		施工箇所	表面膜の状態による区分	曲げ強さ	接着剤	難燃性	厚さ(mm)
13	長尺金属板	「JIS G 3022」					
		施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の形状	化粧加工の方法	防虫処理
2	折板	「JIS G 3022」					
		施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の形状	化粧加工の方法	防虫処理
3	粘土瓦葺	「JIS A 5208」					
		施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の形状	化粧加工の方法	防虫処理
4	とい	「JIS A 5208」					
		施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の形状	化粧加工の方法	防虫処理

14	ステンレスの表面仕上げ	種類			施工箇所(手すり、タラップ、建具以外)		
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
2	アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	※表面処理標準仕様書表14.2.1による					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
5	鉄線の垂れめっき	表面処理方法					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
4	軽量鉄骨天井下地	野巻等の種類					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
5	軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナーの種類					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
6	金属成形板張り	種別					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
7	アルミニウム製窓木	種別					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
8	手すり及びタラップ	手すり					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
15	下地	ラス下地					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
②	モルタル塗り	モルタル					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
3	セリフレパン材	セリフレパン材					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
4	仕上げ材仕上げ	建築物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別

16	防火戸	種類			仕様		
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
3	防犯建物部品	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
7	網製建具	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
8	網製軽量建具	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
9	ステンレス製建具	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別

10	木製建具	種類			仕様		
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
11	建具用金物	金物の種類及び見え掛りの材質等					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
12	マスターキー	マスターキー					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
13	自動ドア開閉機構	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
14	自閉式上り引戸装置	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
15	重量シャッター	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
16	軽量シャッター	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別
17	オーバーヘッドドア	性能等級					
		種別	種別	種別	種別	種別	種別

本部長	管理幹	主幹	主査	担当
特記仕様書3				
株式会社フケタ設計				
代表取締役	三原 富男	取締役	三原 隆夫	取締役
代表取締役	三原 富男	代表取締役	三原 隆夫	代表取締役

工事名	R20245	管理棟	目録	00067号
図面	R03_03	特記仕様書	00067号	00067号
図面	A-03	特記仕様書	00067号	00067号
図面	A-03	特記仕様書	00067号	00067号
図面	A-03	特記仕様書	00067号	00067号

18 ガラス
適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組み合わせ、建築基準及び図面による。
(16.14.2-4)(表16.14.1)

ガラスの留め材及び溝の大きさ
建築基準法に基づき定まる風圧力の(1.1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能(ガラスを除く)

17 カーテンウォール工事
適用は以下によるほか、カーテンウォール図による。(17.1.3)(17.2.2)(17.2.3)
取付方法・層間方式・柱・梁方式・方立方式・スタンドレール方式

2 メタルカーテンウォール
適用は以下によるほか、カーテンウォール図による。(17.2.2.3, 5)
金属材料の種類
アルミニウム材・鋼材・ステンレス鋼材(アルミニウム材の場合)

18 塗装工事
1 材料
2 素地ごしらえ
3 錆止め塗料塗り
4 塗装
適用は以下によるほか、カーテンウォール図による。(17.3.2-5)(表17.3.1, 2)
材料

19 内装工事
1 接着剤
2 ニール床シート
3 ニール床タイル
4 特殊機能床材
5 ニール幅木
6 ゴム床タイル
7 カーペット敷き
接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外
接着剤の施工場所
ニール床シートの種類
ニール床タイルの種類
特殊機能床材の種類
ニール幅木の材質
ゴム床タイルの仕様
カーペットの種類

20 量販き
11 セッコロボード
12 壁紙張り
13 断熱材
14 断熱材の施工
15 断熱材の施工
断熱材の種類
断熱材の施工
断熱材の施工

Table with company information: 株式会社フケダ設計, 代表取締役 三塚 富男, 代表取締役 三塚 富男, 代表取締役 三塚 富男

20 ユニットの他の工事

1 フリーアクセスフロア

フリーアクセスフロア及び表面仕上げ材	(20.2.2)						
施工箇所	構造	寸法(mm)	高さ(mm)	耐摩性能	所定重量(N)	表面仕上げ材	備考
・置敷式 ・支柱 調整式	・500×500	・1.0G ・0.6G	・3,000	・3,000	・F4級 ・F4級+ペト		
・置敷式 ・支柱 調整式	・500×500	・1.0G ・0.6G	・3,000	・3,000	・F4級 ・F4級+ペト		

フリーアクセスフロアフロアの試験方法
※標準仕様書20.2.2(2)(4)(a)~(d)による
寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(4)(a)~(d)による
※方法及び上記以外フリーアクセスフロアの製造所の性能による

2 可動棚仕切

パネル材のホルムアルデヒド放射量	※規制対象外	(20.2.3)			
構造形式	構成材の種類	総厚さ(mm)	表面仕上げ材	透音性	防火性能
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・パネル式 ・スタッドパネル式	A371 パネル系		材質 H 仕上げ	(dB) 500Hz	

3 移動棚仕切

パネル内に取付ける建具	あり(※図示)	なし ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落とし、標準仕様書16章8節の建具用金具に対応する建具とする。 表面仕上げ材を巻紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
-------------	---------	--

4 トイレブース

パネル材料のホルムアルデヒド放射量	※規制対象外	(20.2.5)
表面材の種類	脚部形状	ドアエッジの材質
・メラミン樹脂強化化粧板 ・ポリエステル樹脂強化化粧板	※欄木タイプ	・アルミニウム製 ・ステンレス製

5 階段止り止め

材質	・ステンレス製	・黄銅製押出型材	(20.2.4)
----	---------	----------	----------

6 手すり

材質	・アルミニウム製押出型材	・アルミニウム製 ・ステンレス製	(20.2.6)
----	--------------	---------------------	----------

7 黒板及びホワイトボード

黒板区分	・標準型 ・標準型 ・標準型 ・標準型	・標準型 ・標準型 ・標準型 ・標準型	(20.2.8)
------	------------------------------	------------------------------	----------

8 鏡

鏡	・鏡 ・鏡 ・鏡 ・鏡	・鏡 ・鏡 ・鏡 ・鏡	(20.2.9)
---	----------------------	----------------------	----------

9 表示

表示	・表示 ・表示 ・表示 ・表示	・表示 ・表示 ・表示 ・表示	(20.2.10)
----	--------------------------	--------------------------	-----------

10 煙突ライティング

煙突ライティング	・煙突ライティング材 適用安全使用温度	・400℃ ・650℃	(20.2.11)
----------	------------------------	----------------	-----------

11 ブラインド

ブラインド	・ブラインド ・ブラインド ・ブラインド ・ブラインド	・ブラインド ・ブラインド ・ブラインド ・ブラインド	(20.2.12)
-------	--------------------------------------	--------------------------------------	-----------

12 ロールスクリーン

ロールスクリーン	・ロールスクリーン ・ロールスクリーン ・ロールスクリーン ・ロールスクリーン	・ロールスクリーン ・ロールスクリーン ・ロールスクリーン ・ロールスクリーン	(20.2.13)
----------	--	--	-----------

13 カーテン

カーテン	・カーテン ・カーテン ・カーテン ・カーテン	・カーテン ・カーテン ・カーテン ・カーテン	(20.2.14)
------	----------------------------------	----------------------------------	-----------

14 カーテンレール

カーテンレール	・カーテンレール ・カーテンレール ・カーテンレール	・カーテンレール ・カーテンレール ・カーテンレール	(20.2.14)
---------	----------------------------------	----------------------------------	-----------

15 ブラインドボックス及びカーテンボックス

ブラインドボックス	・ブラインドボックス ・ブラインドボックス ・ブラインドボックス	・ブラインドボックス ・ブラインドボックス ・ブラインドボックス	(20.2.14)
-----------	--	--	-----------

16 天井点検口

天井点検口	・天井点検口 ・天井点検口 ・天井点検口	・天井点検口 ・天井点検口 ・天井点検口	(20.2.14)
-------	----------------------------	----------------------------	-----------

17 床点検口

床点検口	・床点検口 ・床点検口 ・床点検口	・床点検口 ・床点検口 ・床点検口	(20.2.14)
------	-------------------------	-------------------------	-----------

18 耐震スリット

耐震スリット	・耐震スリット ・耐震スリット ・耐震スリット	・耐震スリット ・耐震スリット ・耐震スリット	(20.2.14)
--------	-------------------------------	-------------------------------	-----------

19 止水板

止水板	・止水板 ・止水板 ・止水板	・止水板 ・止水板 ・止水板	(20.2.14)
-----	----------------------	----------------------	-----------

20 エキスパンションジョイント金物

エキスパンションジョイント金物	・エキスパンション ジョイント金物	・エキスパンション ジョイント金物	(20.2.14)
-----------------	----------------------	----------------------	-----------

21 くつみマキット

くつみマキット	・くつみマキット ・くつみマキット ・くつみマキット	・くつみマキット ・くつみマキット ・くつみマキット	(20.2.14)
---------	----------------------------------	----------------------------------	-----------

22 流しユニット

流しユニット	・流しユニット ・流しユニット ・流しユニット	・流しユニット ・流しユニット ・流しユニット	(20.2.14)
--------	-------------------------------	-------------------------------	-----------

23 鏡半

鏡半	・鏡半 ・鏡半 ・鏡半	・鏡半 ・鏡半 ・鏡半	(20.2.14)
----	-------------------	-------------------	-----------

24 鏡半受金物

鏡半受金物	・鏡半受金物 ・鏡半受金物 ・鏡半受金物	・鏡半受金物 ・鏡半受金物 ・鏡半受金物	(20.2.14)
-------	----------------------------	----------------------------	-----------

25 25 止め止り

止め止り	・止め止り ・止め止り ・止め止り	・止め止り ・止め止り ・止め止り	(20.2.14)
------	-------------------------	-------------------------	-----------

26 フェンス

フェンス	・フェンス ・フェンス ・フェンス	・フェンス ・フェンス ・フェンス	(20.2.14)
------	-------------------------	-------------------------	-----------

27 プレキャストコンクリート

プレキャストコンクリート	・プレキャスト コンクリート	・プレキャスト コンクリート	(20.3.2-4)
--------------	-------------------	-------------------	------------

28 間知石及びコンクリート間知ブロック

間知石及びコンクリート間知ブロック	・間知石 ・コンクリート 間知ブロック	・間知石 ・コンクリート 間知ブロック	(20.4.2.3)
-------------------	---------------------------	---------------------------	------------

29 網製書架及び物品箱

網製書架及び物品箱	・網製書架 ・網製書架 ・網製書架	・網製書架 ・網製書架 ・網製書架	(20.4.2.3)
-----------	-------------------------	-------------------------	------------

30 壁内掲示板

壁内掲示板	・壁内掲示板 ・壁内掲示板 ・壁内掲示板	・壁内掲示板 ・壁内掲示板 ・壁内掲示板	(20.4.2.3)
-------	----------------------------	----------------------------	------------

31 洗面カウンター

洗面カウンター	・洗面カウンター ・洗面カウンター ・洗面カウンター	・洗面カウンター ・洗面カウンター ・洗面カウンター	(21.1.1.2)
---------	----------------------------------	----------------------------------	------------

32 防煙垂れ壁

防煙垂れ壁	・防煙垂れ壁 ・防煙垂れ壁 ・防煙垂れ壁	・防煙垂れ壁 ・防煙垂れ壁 ・防煙垂れ壁	(21.1.1.2)
-------	----------------------------	----------------------------	------------

33 壁内掲示板

壁内掲示板	・壁内掲示板 ・壁内掲示板 ・壁内掲示板	・壁内掲示板 ・壁内掲示板 ・壁内掲示板	(21.1.1.2)
-------	----------------------------	----------------------------	------------

34 収納家具

収納家具	・収納家具 ・収納家具 ・収納家具	・収納家具 ・収納家具 ・収納家具	(21.1.1.2)
------	-------------------------	-------------------------	------------

21 排水工事

排水工事	・排水工事 ・排水工事 ・排水工事	・排水工事 ・排水工事 ・排水工事	(21.2.1)
------	-------------------------	-------------------------	----------

22 鉄線ふた

鉄線ふた	・鉄線ふた ・鉄線ふた ・鉄線ふた	・鉄線ふた ・鉄線ふた ・鉄線ふた	(21.2.1)
------	-------------------------	-------------------------	----------

23 グレーチング

グレーチング	・グレーチング ・グレーチング ・グレーチング	・グレーチング ・グレーチング ・グレーチング	(21.2.1)
--------	-------------------------------	-------------------------------	----------

24 街きよ、縁石、側溝

街きよ、縁石、側溝	・街きよ ・縁石 ・側溝	・街きよ ・縁石 ・側溝	(21.3.1.2)
-----------	--------------------	--------------------	------------

25 5カーテン

5カーテン	・5カーテン ・5カーテン ・5カーテン	・5カーテン ・5カーテン ・5カーテン	(22.6.2-4)
-------	----------------------------	----------------------------	------------

26 6透水性舗装

6透水性舗装	・6透水性 舗装	・6透水性 舗装	(22.6.2-4)
--------	-------------	-------------	------------

27 1路床

1路床	・1路床 ・1路床 ・1路床	・1路床 ・1路床 ・1路床	(22.2.2.3.5)
-----	----------------------	----------------------	--------------

○路床安定処理

安定処理の方法	・安定処理工法 ・置き敷き工法 ・添加工料による安定処理	・安定処理工法 ・置き敷き工法 ・添加工料による安定処理	(22.3.2.3)
---------	------------------------------------	------------------------------------	------------

2 路盤

路盤	・路盤 ・路盤 ・路盤	・路盤 ・路盤 ・路盤	(22.3.2.3)
----	-------------------	-------------------	------------

3 アスファルト舗装

アスファルト舗装	・アスファルト 舗装	・アスファルト 舗装	(22.4.2-6)
----------	---------------	---------------	------------

4 コンクリート舗装

コンクリート舗装	・コンクリート 舗装	・コンクリート 舗装	(22.5.1-3)
----------	---------------	---------------	------------

5カーテン

5カーテン	・5カーテン ・5カーテン ・5カーテン	・5カーテン ・5カーテン ・5カーテン	(22.6.2-4)
-------	----------------------------	----------------------------	------------

6透水性舗装

6透水性舗装	・6透水性 舗装	・6透水性 舗装	(22.6.2-4)
--------	-------------	-------------	------------

27 1路床

1路床	・1路床 ・1路床 ・1路床	・1路床 ・1路床 ・1路床	(22.2.2.3.5)
-----	----------------------	----------------------	--------------

工事番号 R02045

21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備建築工事

代表取締役	三塚 富男	取締役	三塚 富男
副代表取締役	三塚 富男	副代表取締役	三塚 富男
専任副代表取締役	三塚 富男	専任副代表取締役	三塚 富男

特記仕様書5

株式会社フケタ設計

代表取締役 三塚 富男 一級建築士登録番号 89479
専任副代表取締役 三塚 富男 一級建築士登録番号 89479
専任副代表取締役 三塚 富男 一級建築士登録番号 89479

7	半たわみ性舗装	<p>・透水プラスチック舗装 G ポラスアスファルト混合物(13) 閉鎖度アスファルト混合物(13) 配合(表22.7.1)</p> <table border="1"> <tr><th rowspan="2">ふるいの呼び名</th><th colspan="2">ふるいの透過質量百分率(%)</th></tr> <tr><th>車路、駐車場</th><th>歩行者用通路</th></tr> <tr><td>19mm</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>13.2mm</td><td>90~100</td><td>95~100</td></tr> <tr><td>4.75mm</td><td>11~35</td><td>20~35</td></tr> <tr><td>2.36mm</td><td>10~20</td><td>12~25</td></tr> <tr><td>300µm</td><td>-</td><td>5~13</td></tr> <tr><td>75µm</td><td>3~7</td><td>3~6</td></tr> <tr><td>アスファルト(%)</td><td>4~6</td><td>3.5~5.5</td></tr> </table> <p>基準値(表22.7.2)</p> <table border="1"> <tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="2">基準値</th></tr> <tr><th>車路、駐車場</th><th>歩行者用通路</th></tr> <tr><td>最大粒径(mm)</td><td>13</td><td>3.0以上</td></tr> <tr><td>安定度(kN)</td><td>3.43以上</td><td>20~40</td></tr> <tr><td>フロー値(1/100cm)</td><td>20程度</td><td>12以上</td></tr> <tr><td>空隙率(%)</td><td>20程度</td><td>12以上</td></tr> <tr><td>動的安定度(回/mm)</td><td>3,000以上</td><td>-</td></tr> <tr><td>透水係数(cm/s)</td><td>1×10⁻²以上</td><td>-</td></tr> </table> <p>試験 閉鎖度アスファルト混合物等の抽出試験・行う・行わない ・不織布(ジオテキスタイル) 敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 ・図示 舗装の平坦性 ※著しい隆起がないもの</p> <p>・透水性コンクリート舗装 (22.5.2~4.6) コンクリート舗装に対する基準値</p> <table border="1"> <tr><th rowspan="2">項目</th><th colspan="2">基準値</th></tr> <tr><th>車路、駐車場</th><th>歩行者用通路</th></tr> <tr><td>最大粒径(mm)</td><td>13</td><td>3.0以上</td></tr> <tr><td>安定度(kN)</td><td>3.43以上</td><td>20~40</td></tr> <tr><td>フロー値(1/100cm)</td><td>20程度</td><td>12以上</td></tr> <tr><td>空隙率(%)</td><td>20程度</td><td>12以上</td></tr> <tr><td>動的安定度(回/mm)</td><td>3,000以上</td><td>-</td></tr> <tr><td>透水係数(cm/s)</td><td>1×10⁻²以上</td><td>-</td></tr> </table> <p>構成、厚さはコンクリート舗装による ・不織布(ジオテキスタイル) 敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 ・図示</p> <p>・透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2.3) 透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による</p> <p>・透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2.3) 透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による</p> <p>半たわみ舗装(車路、駐車場)の構成及び厚さ ※図示 (22.3.2.3.5)(表22.3.1)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>種類</th><th>厚さ(mm)</th></tr> <tr><td>表層</td><td>半たわみ性舗装用アスファルト混合物1型(13)</td><td>40</td></tr> <tr><td>基層</td><td>再生粗粒アスファルト混合物(20)</td><td>40</td></tr> </table> <p>試験 半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験・行う・行わない</p> <p>材料 浸透用セメントミルクの標準的な性状</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>性状</th><th>試験方法</th></tr> <tr><td>フロー値(100g/ml)</td><td>10~14</td><td>舗装試験・試験法要領(C041)</td></tr> <tr><td>圧縮強度(7日養生) MPa</td><td>9.8~20.4</td><td>JIS R 5201</td></tr> <tr><td>曲げ強度(7日養生) MPa</td><td>2.0以上</td><td>舗装試験・試験法要領(C042)</td></tr> </table> <p>配合 半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合</p> <table border="1"> <tr><th rowspan="2">ふるいの呼び名</th><th colspan="2">ふるいの透過質量百分率(%)</th></tr> <tr><th>車路、駐車場</th><th>歩行者用通路</th></tr> <tr><td>19mm</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>13.2mm</td><td>95~100</td><td>95~100</td></tr> <tr><td>4.75mm</td><td>10~35</td><td>20~35</td></tr> <tr><td>2.36mm</td><td>5~20</td><td>5~20</td></tr> <tr><td>600µm</td><td>4~12</td><td>4~12</td></tr> <tr><td>300µm</td><td>3~12</td><td>3~12</td></tr> <tr><td>75µm</td><td>1~6</td><td>1~6</td></tr> <tr><td>アスファルト量(%)</td><td>3~4.5</td><td>3~4.5</td></tr> </table> <p>半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマージナル安定度試験に対する基準値</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>基準値</th></tr> <tr><td>密度(g/cm³)</td><td>1.9以上</td></tr> <tr><td>安定度(kN)</td><td>2.94以上</td></tr> <tr><td>フロー値(1/100cm)</td><td>20~40</td></tr> <tr><td>空隙率(%)</td><td>20~28</td></tr> <tr><td>安定度回数(回)</td><td>50</td></tr> </table> <p>施工 アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。 浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。 (1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサーによって行うが、工事規模が大きい場合には固定式や固定式の混合プラントを用いることもある。 (2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下にならなければならない。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に掃帚口・ノリ等より行う。 (3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすりばね効果を低下させることがあるので、舗装表面のすじが現れる程度にセメントミルクをゴレノリ等で除去する。特にすりばね効果を確認を必要とするときは、雑砂の使用及び高粘度セメントミルクのよりこすり除去等、材料や施工法等で対応する。場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。 (4) 交通開放までの一般的養生期間は、下表に示すとおりである。 <table border="1"> <tr><th>セメントミルクの種類</th><th>養生期間</th></tr> <tr><td>普通タイプ</td><td>約 3日</td></tr> <tr><td>早乾タイプ</td><td>約 1日</td></tr> <tr><td>超早乾タイプ</td><td>約 3時間</td></tr> </table> (5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の割裂や飛散、またごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注法前に交通開放を行わないようにする。 試験 締固め度 標準仕様書22.4.2(2)による 舗装厚さの許容差 ※標準仕様書 22.4.2(3)による 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 弾性舗装(歩行者用通路)の構成及び厚さ (22.4.2~6)(表22.4.2~6) ※図示</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>弾性舗装計</th><th>厚さ(mm)</th></tr> <tr><td>表層</td><td>弾性舗装計</td><td>15~20</td></tr> <tr><td>基層</td><td>再生粗粒アスファルト混合物(13)</td><td>30</td></tr> </table> <p>加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による</p>	ふるいの呼び名	ふるいの透過質量百分率(%)		車路、駐車場	歩行者用通路	19mm	100	100	13.2mm	90~100	95~100	4.75mm	11~35	20~35	2.36mm	10~20	12~25	300µm	-	5~13	75µm	3~7	3~6	アスファルト(%)	4~6	3.5~5.5	項目	基準値		車路、駐車場	歩行者用通路	最大粒径(mm)	13	3.0以上	安定度(kN)	3.43以上	20~40	フロー値(1/100cm)	20程度	12以上	空隙率(%)	20程度	12以上	動的安定度(回/mm)	3,000以上	-	透水係数(cm/s)	1×10 ⁻² 以上	-	項目	基準値		車路、駐車場	歩行者用通路	最大粒径(mm)	13	3.0以上	安定度(kN)	3.43以上	20~40	フロー値(1/100cm)	20程度	12以上	空隙率(%)	20程度	12以上	動的安定度(回/mm)	3,000以上	-	透水係数(cm/s)	1×10 ⁻² 以上	-	区分	種類	厚さ(mm)	表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物1型(13)	40	基層	再生粗粒アスファルト混合物(20)	40	項目	性状	試験方法	フロー値(100g/ml)	10~14	舗装試験・試験法要領(C041)	圧縮強度(7日養生) MPa	9.8~20.4	JIS R 5201	曲げ強度(7日養生) MPa	2.0以上	舗装試験・試験法要領(C042)	ふるいの呼び名	ふるいの透過質量百分率(%)		車路、駐車場	歩行者用通路	19mm	100	100	13.2mm	95~100	95~100	4.75mm	10~35	20~35	2.36mm	5~20	5~20	600µm	4~12	4~12	300µm	3~12	3~12	75µm	1~6	1~6	アスファルト量(%)	3~4.5	3~4.5	項目	基準値	密度(g/cm ³)	1.9以上	安定度(kN)	2.94以上	フロー値(1/100cm)	20~40	空隙率(%)	20~28	安定度回数(回)	50	セメントミルクの種類	養生期間	普通タイプ	約 3日	早乾タイプ	約 1日	超早乾タイプ	約 3時間	区分	弾性舗装計	厚さ(mm)	表層	弾性舗装計	15~20	基層	再生粗粒アスファルト混合物(13)	30
	ふるいの呼び名	ふるいの透過質量百分率(%)																																																																																																																																																							
		車路、駐車場	歩行者用通路																																																																																																																																																						
	19mm	100	100																																																																																																																																																						
13.2mm	90~100	95~100																																																																																																																																																							
4.75mm	11~35	20~35																																																																																																																																																							
2.36mm	10~20	12~25																																																																																																																																																							
300µm	-	5~13																																																																																																																																																							
75µm	3~7	3~6																																																																																																																																																							
アスファルト(%)	4~6	3.5~5.5																																																																																																																																																							
項目	基準値																																																																																																																																																								
	車路、駐車場	歩行者用通路																																																																																																																																																							
最大粒径(mm)	13	3.0以上																																																																																																																																																							
安定度(kN)	3.43以上	20~40																																																																																																																																																							
フロー値(1/100cm)	20程度	12以上																																																																																																																																																							
空隙率(%)	20程度	12以上																																																																																																																																																							
動的安定度(回/mm)	3,000以上	-																																																																																																																																																							
透水係数(cm/s)	1×10 ⁻² 以上	-																																																																																																																																																							
項目	基準値																																																																																																																																																								
	車路、駐車場	歩行者用通路																																																																																																																																																							
最大粒径(mm)	13	3.0以上																																																																																																																																																							
安定度(kN)	3.43以上	20~40																																																																																																																																																							
フロー値(1/100cm)	20程度	12以上																																																																																																																																																							
空隙率(%)	20程度	12以上																																																																																																																																																							
動的安定度(回/mm)	3,000以上	-																																																																																																																																																							
透水係数(cm/s)	1×10 ⁻² 以上	-																																																																																																																																																							
区分	種類	厚さ(mm)																																																																																																																																																							
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物1型(13)	40																																																																																																																																																							
基層	再生粗粒アスファルト混合物(20)	40																																																																																																																																																							
項目	性状	試験方法																																																																																																																																																							
フロー値(100g/ml)	10~14	舗装試験・試験法要領(C041)																																																																																																																																																							
圧縮強度(7日養生) MPa	9.8~20.4	JIS R 5201																																																																																																																																																							
曲げ強度(7日養生) MPa	2.0以上	舗装試験・試験法要領(C042)																																																																																																																																																							
ふるいの呼び名	ふるいの透過質量百分率(%)																																																																																																																																																								
	車路、駐車場	歩行者用通路																																																																																																																																																							
19mm	100	100																																																																																																																																																							
13.2mm	95~100	95~100																																																																																																																																																							
4.75mm	10~35	20~35																																																																																																																																																							
2.36mm	5~20	5~20																																																																																																																																																							
600µm	4~12	4~12																																																																																																																																																							
300µm	3~12	3~12																																																																																																																																																							
75µm	1~6	1~6																																																																																																																																																							
アスファルト量(%)	3~4.5	3~4.5																																																																																																																																																							
項目	基準値																																																																																																																																																								
密度(g/cm ³)	1.9以上																																																																																																																																																								
安定度(kN)	2.94以上																																																																																																																																																								
フロー値(1/100cm)	20~40																																																																																																																																																								
空隙率(%)	20~28																																																																																																																																																								
安定度回数(回)	50																																																																																																																																																								
セメントミルクの種類	養生期間																																																																																																																																																								
普通タイプ	約 3日																																																																																																																																																								
早乾タイプ	約 1日																																																																																																																																																								
超早乾タイプ	約 3時間																																																																																																																																																								
区分	弾性舗装計	厚さ(mm)																																																																																																																																																							
表層	弾性舗装計	15~20																																																																																																																																																							
基層	再生粗粒アスファルト混合物(13)	30																																																																																																																																																							
9	ブロック系舗装	<p>・コンクリート平板舗装 ④ (歩行者用通路)の構成及び厚さ (22.8.2.3) ※図示</p> <table border="1"> <tr><th>種類</th><th>形状</th><th>寸法(mm)</th><th>厚さ(mm)</th><th>目地材</th><th>備考</th></tr> <tr><td>※普通平板(N)</td><td>※300角</td><td>※60</td><td>※砂</td><td>表面加工</td><td></td></tr> <tr><td>・透水平板(P)</td><td>・</td><td>・</td><td>・モルタル</td><td>・研ぎ出し</td><td></td></tr> <tr><td>・疎水性平板(M)</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・洗い出し</td><td>・たき出し</td></tr> </table> <p>目地材</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂 空練り砂 <p>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル</p> <p>歩行者用通路に使用する普通平板は ④(再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水平板は ④(透水性コンクリート)とする。 仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。</p> <p>・インターロッキングブロック舗装 ⑤ の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <tr><th>種類</th><th>部位</th><th>形状・寸法(mm)</th><th>厚さ(mm)</th><th>勾ひ角度(N/mm²)</th><th>積断面積(%)</th><th>目地材</th><th>備考</th></tr> <tr><td>※普通ブロック(N)</td><td>車路、</td><td>・図示</td><td>80</td><td>5.0以上</td><td>2%</td><td>砂、色</td><td>表面加工</td></tr> <tr><td>・透水性ブロック(P)</td><td>駐車場</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・標準品</td></tr> <tr><td>・透水性ブロック(M)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>※普通ブロック(N)</td><td>歩行者用通路</td><td>・図示</td><td>60</td><td>3.0以上</td><td>1.5~2%</td><td>砂</td><td></td></tr> <tr><td>・透水性ブロック(P)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・透水性ブロック(M)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>歩行者用通路に使用する普通ブロックは ⑤(再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックは ⑤(透水性コンクリート)とする。 仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>部位</th><th>厚さ(mm)</th><th>種類</th></tr> <tr><td rowspan="2">砂利層</td><td>・車路、駐車場</td><td>20</td><td>砂</td></tr> <tr><td>・歩行者用通路</td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>フィルター層</td><td></td><td>100</td><td>川砂、海砂又は良質な山砂(75µmふるい透過率9%以下)</td></tr> </table> <p>・不織布(ジオテキスタイル) 敷設位置 ※図示 ・敷設層と路床の間の敷設 ・フィルター層と路床の間の敷設 単位面積質量 ・60g/m²程度 厚さ(mm) ・0.5~1.0 引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 透水係数 ・1.5×10⁻¹ cm/sec以上 舗装の形状(車路、駐車場) ・ヘリンボンド(45°) ・ヘリンボンド(90°) 仕上り面の平坦性 ※通行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。</p> <p>・舗石舗装(歩行者用通路)の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <tr><th>種類</th><th>形状・寸法(mm)</th><th>厚さ(mm)</th><th>施工方法</th><th>基層</th><th>基層の厚さ(mm)</th></tr> <tr><td>※花こう岩</td><td>・</td><td>・</td><td>・ラウご張り</td><td>・3カク+版</td><td>※70</td></tr> <tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・7カク+混合物</td><td>※50</td></tr> </table> <p>目地材 ※モルタル クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。</p>	種類	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考	※普通平板(N)	※300角	※60	※砂	表面加工		・透水平板(P)	・	・	・モルタル	・研ぎ出し		・疎水性平板(M)	・	・	・	・洗い出し	・たき出し	種類	部位	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	勾ひ角度(N/mm ²)	積断面積(%)	目地材	備考	※普通ブロック(N)	車路、	・図示	80	5.0以上	2%	砂、色	表面加工	・透水性ブロック(P)	駐車場	・	・	・	・	・	・標準品	・透水性ブロック(M)								※普通ブロック(N)	歩行者用通路	・図示	60	3.0以上	1.5~2%	砂		・透水性ブロック(P)								・透水性ブロック(M)								区分	部位	厚さ(mm)	種類	砂利層	・車路、駐車場	20	砂	・歩行者用通路	20		フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂(75µmふるい透過率9%以下)	種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基層	基層の厚さ(mm)	※花こう岩	・	・	・ラウご張り	・3カク+版	※70		・	・	・	・7カク+混合物	※50																																						
	種類	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考																																																																																																																																																			
	※普通平板(N)	※300角	※60	※砂	表面加工																																																																																																																																																				
・透水平板(P)	・	・	・モルタル	・研ぎ出し																																																																																																																																																					
・疎水性平板(M)	・	・	・	・洗い出し	・たき出し																																																																																																																																																				
種類	部位	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	勾ひ角度(N/mm ²)	積断面積(%)	目地材	備考																																																																																																																																																		
※普通ブロック(N)	車路、	・図示	80	5.0以上	2%	砂、色	表面加工																																																																																																																																																		
・透水性ブロック(P)	駐車場	・	・	・	・	・	・標準品																																																																																																																																																		
・透水性ブロック(M)																																																																																																																																																									
※普通ブロック(N)	歩行者用通路	・図示	60	3.0以上	1.5~2%	砂																																																																																																																																																			
・透水性ブロック(P)																																																																																																																																																									
・透水性ブロック(M)																																																																																																																																																									
区分	部位	厚さ(mm)	種類																																																																																																																																																						
砂利層	・車路、駐車場	20	砂																																																																																																																																																						
	・歩行者用通路	20																																																																																																																																																							
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂(75µmふるい透過率9%以下)																																																																																																																																																						
種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基層	基層の厚さ(mm)																																																																																																																																																				
※花こう岩	・	・	・ラウご張り	・3カク+版	※70																																																																																																																																																				
	・	・	・	・7カク+混合物	※50																																																																																																																																																				
10	砂利敷き	<p>種類 (22.9.2)(表22.9.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A種(施工範囲: ・図示 ・通路) ・B種(施工範囲: ・図示 ・建物用地) 																																																																																																																																																							
11	路面標示用塗料	<p>路面標示用塗料は JIS K 5605 による。</p> <table border="1"> <tr><th>種類</th><th>施工</th><th>適用</th><th>色</th><th>幅(mm)</th><th>塗布厚さ(mm)</th></tr> <tr><td>・1種 ④</td><td>常温</td><td>液状</td><td>・白</td><td>・150</td><td>・1.0</td></tr> <tr><td>・2種 ④</td><td>加熱</td><td>粉体状</td><td></td><td>・100</td><td></td></tr> <tr><td>※3種</td><td>溶融</td><td>粉体状</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>④ 感温発色有機溶剤型路面標示用水性塗料</p>	種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	・1種 ④	常温	液状	・白	・150	・1.0	・2種 ④	加熱	粉体状		・100		※3種	溶融	粉体状																																																																																																																																		
種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)																																																																																																																																																				
・1種 ④	常温	液状	・白	・150	・1.0																																																																																																																																																				
・2種 ④	加熱	粉体状		・100																																																																																																																																																					
※3種	溶融	粉体状																																																																																																																																																							
23	植栽地の確認等	<p>土壌の水素イオン濃度(pH)試験 ・行う ・行わない (21.1.3) 電気伝導度(ED)の試験 ・行う ・行わない</p>																																																																																																																																																							
	植栽基盤の整備	<p>(23.2.2~4)</p> <table border="1"> <tr><th>植栽</th><th>工法</th><th>有効土層の厚さ(cm)</th><th>整備範囲</th><th>土壌改良材</th></tr> <tr><td rowspan="4">・樹木</td><td>※A種</td><td>樹高12m以上</td><td>・業振り部分</td><td>・適用する</td></tr> <tr><td>・B種</td><td>(※100 - 120 - 150)</td><td>・植栽部分</td><td>・適用しない</td></tr> <tr><td>・C種</td><td>樹高7m以上~12m未満</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・D種</td><td>(※80 - 100)</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td rowspan="2">※芝、地被類</td><td>※B種</td><td>樹高3m以上~7m未満</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td>・</td><td>(※60 - 80)</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td>※C種</td><td>樹高1m未満</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td>・</td><td>(※50 - 60)</td><td>・</td><td>・</td></tr> </table> <p>植栽基盤の排水設備 ・設ける(※図示) ・設けない</p> <p>補込み用土 ・適用する(・現場発生土の良質土 ・客土) ・適用しない</p> <p>土壌改良材 ・適用する ・適用しない ・パークランニング 施工箇所 ※植栽範囲 ・図示 保存庫 植栽基盤整備1mあたり(・50L) 汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト) ④ 施工箇所 ※植栽範囲 ・図示 使用量 植栽基盤整備1mあたり(・10L) 材料 (金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令)の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植栽試験の調査の結果、審が認められるものとする。</p>	植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材	・樹木	※A種	樹高12m以上	・業振り部分	・適用する	・B種	(※100 - 120 - 150)	・植栽部分	・適用しない	・C種	樹高7m以上~12m未満	・	・	・D種	(※80 - 100)	・	・	※芝、地被類	※B種	樹高3m以上~7m未満	・	・	・	(※60 - 80)	・	・		※C種	樹高1m未満	・	・		・	(※50 - 60)	・	・																																																																																																														
	植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材																																																																																																																																																				
・樹木	※A種	樹高12m以上	・業振り部分	・適用する																																																																																																																																																					
	・B種	(※100 - 120 - 150)	・植栽部分	・適用しない																																																																																																																																																					
	・C種	樹高7m以上~12m未満	・	・																																																																																																																																																					
	・D種	(※80 - 100)	・	・																																																																																																																																																					
※芝、地被類	※B種	樹高3m以上~7m未満	・	・																																																																																																																																																					
	・	(※60 - 80)	・	・																																																																																																																																																					
	※C種	樹高1m未満	・	・																																																																																																																																																					
	・	(※50 - 60)	・	・																																																																																																																																																					
3	樹木	<p>樹種、寸法、株立数等 ※図示 (23.3.2)</p>																																																																																																																																																							

4	4 支柱	<p>支柱材 ※丸太(断伐材) ④ ・真竹 (23.3.2.7) 防腐処理方法 ※加圧防腐処理丸太材 ・図示</p>																				
5	5 幹巻き用材料	<p>材料 ※幹巻き用テープ ・わら及びこも (23.3.2)</p>																				
6	6 芝	<p>種類 ※コウライシバ ・ノシバ (23.4.2.3) 芝張りの工法 平場 ※目地張り ・べた張り 法面 ・目地張り ・べた張り</p>																				
7	7 吹付けはじ	<p>(23.4.2)</p> <table border="1"> <tr><th colspan="2">種子の種類</th><th>発芽率</th><th>種子の量(g/m²)</th><th>備考</th></tr> <tr><td colspan="2">※津芝類(採取後2年以内)</td><td>※発芽率80%以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	種子の種類		発芽率	種子の量(g/m ²)	備考	※津芝類(採取後2年以内)		※発芽率80%以上												
種子の種類		発芽率	種子の量(g/m ²)	備考																		
※津芝類(採取後2年以内)		※発芽率80%以上																				
8	8 地被類	<p>(23.4.2)</p> <table border="1"> <tr><th>樹種</th><th>コンテナ径</th><th>単位面積当たりのコンテナ数</th><th>芽立数</th></tr> <tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数	・				・				・							
樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数																			
・																						
・																						
・																						
9	9 新植、移植樹木、芝等の植栽	<p>(23.3.4.6)(23.4.7)</p> <p>新植樹木(芝張り、吹付けはじ及び地被類を含む)の植栽の期間 ※引戻しの日から1年 無し 移植樹木の移植期間を行う期間 ※引戻しの日から1年 無し</p>																				
10	10 崖上緑化 ④	<p>植栽基盤及び材料 (23.5.2~4) 崖上緑化システム 土壌層の厚さ ※図示 排水層 軽量骨材(層の厚さ) ・板状成型品 補込み用土 ※改良土 ・人工軽量土 樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示 芝切羽、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示 ・崖上緑化システム 樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 - 1.1) (・1.3) 倍の風圧力に対処した工法 支柱 ・設置する(形式 ・図示) かん水装置 ・設置する(種類 ・)</p>																				

21	21 精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備建築工事	<p>工事名 R02045</p> <p>管理職 藤田 和典</p> <p>設計 R03_03</p> <p>監理 特記仕様書6</p> <p>監理者 一級建築士登録番号 200667 号</p> <p>監理者 一級建築士</p> <p>監理者 一級建築士登録番号</p> <p>監理者 一級建築士登録番号</p> <p>監理者 一級建築士登録番号 12749 号</p> <p>代表取締役 三原 富男 一級建築士登録番号 89476 号 〒 東京都中央区本町1-10-1番1号 TEL 03(522)0322 株主 株式会社 藤田和典</p>										
<table border="1"> <tr><th>本部長</th><th>管理幹</th><th>主幹</th><th>主査</th><th>担当</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		本部長	管理幹	主幹	主査	担当						<p>株式会社 フケダ設計</p> <p>代表取締役 三原 富男 一級建築士登録番号 89476 号 〒 東京都中央区本町1-10-1番1号 TEL 03(522)0322</p>
本部長	管理幹	主幹	主査	担当								

22	22 植栽及び崖上緑化工事	<p>植栽及び崖上緑化工事</p>
----	---------------	-------------------

3 特別管理産業廃棄物の処理 特別管理産業廃棄物の種類 備考

4 PCBを含む機器類 引渡しを要する機器類

5 PCB含有シリング材 除去処理工事 除去範囲 ※ 調査・構築工事領書(日本シリング工事業協同組合連合会/日本シリング材工業会)による。

6 ダイオキシン類 廃棄物の焼却施設の解体 解体方法

6 石綿含有建材の事前調査 石綿含有建材の事前調査 工事着工に先立ち、目視及び臭による設計図書等により石綿を含有している吹きかけ材、塗料等、建築材料等の使用の有無について調査し、監督員に報告する。

7 石綿含有建材の除去及び処理 石綿含有建材の除去(レベル1) 除去対象範囲・表示

8 石綿含有保温材等の除去(レベル2) 除去の方法

9 石綿含有成形板の除去(レベル3) 除去対象範囲・表示

7 石綿含有建築用仕上塗材等の除去

8 リファクトリーセラミックファインバーの処理 除去処理対象物・表示

9 その他

7 施工調査

2 回収及び処分

8 周辺建築物等調査

2 調査対象範囲

9 その他

5 解体工事全般

(写真撮影) 事前調査に掲げる建築物等の各部位の調査に当たっては、計測箇所を次の方法により写真撮影を行うものとする。

(事後調査) 1 受注者は、事前調査を行った建築物等について、損傷箇所等の変化及び工事によって新たに発生した損傷の状況及び復元の調査を行うものとする。

調査の作成 受注者は、次の各号の事前調査書及び図面の作成を行うものとする。

(事前調査書及び図面)

(事後調査書及び図面の作成)

2 調査対象範囲

9 その他

5 解体工事全般

工 事 名 R20245 管理棟増築 廊下拡充

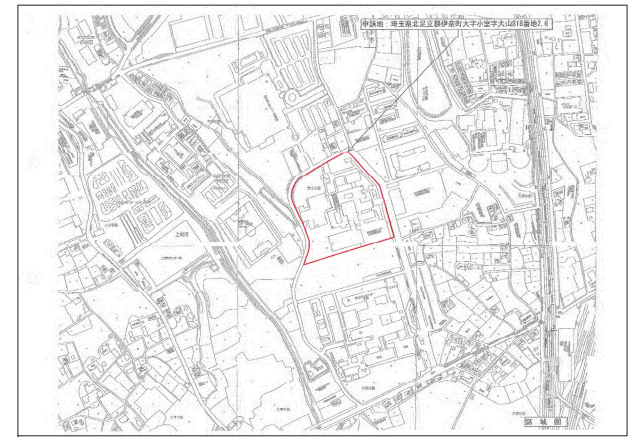
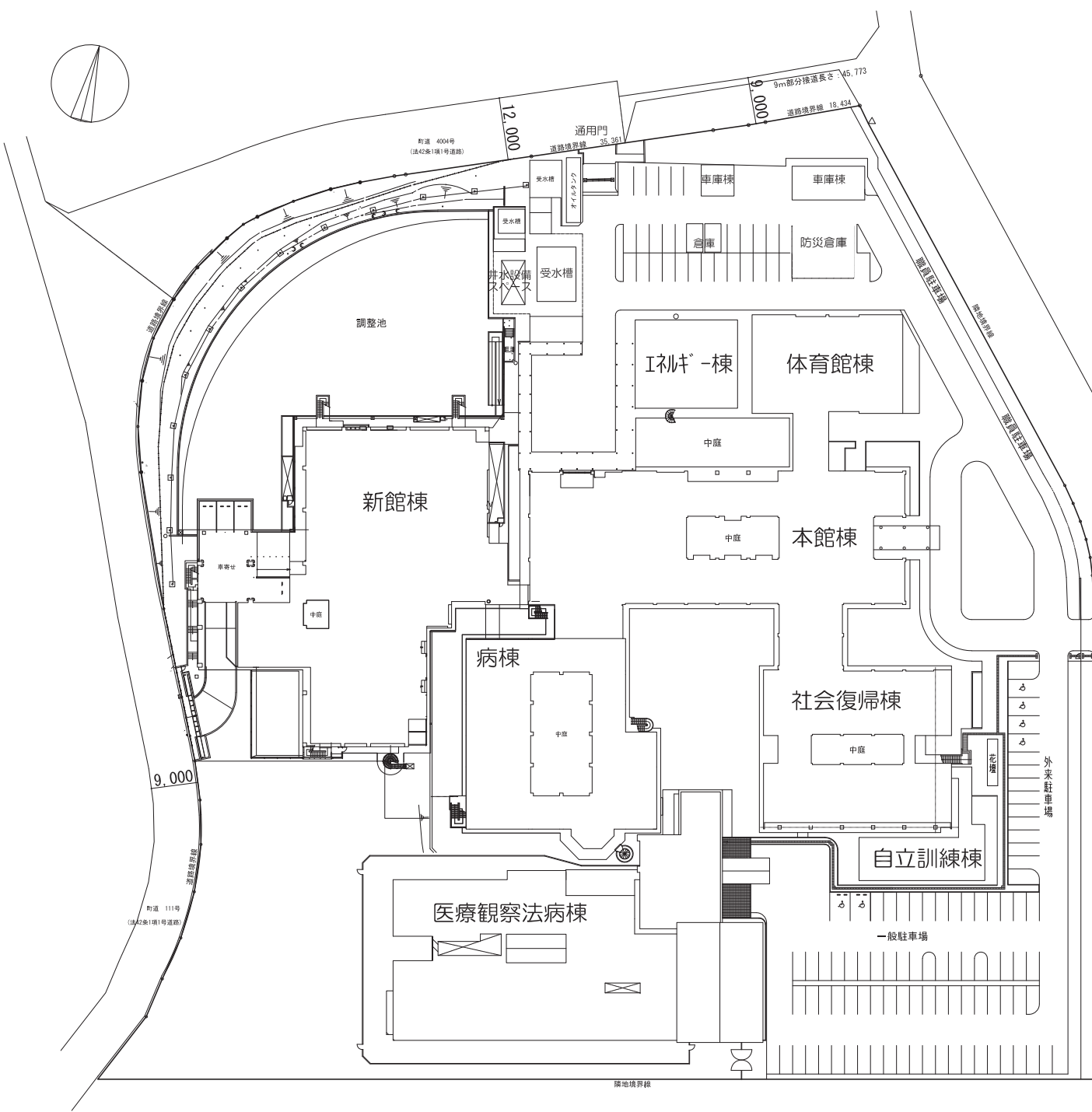
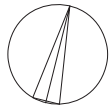
特記仕様書8

代表取締役 三原 富房

株式会社 フケタ設計

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

管理棟 監理士 田中 興	一般職 監理士 佐藤 宗
一般職 監理士 佐藤 宗	一般職 監理士 佐藤 宗
一般職 監理士 佐藤 宗	一般職 監理士 佐藤 宗
二級建築士 佐藤 宗	二級建築士 佐藤 宗

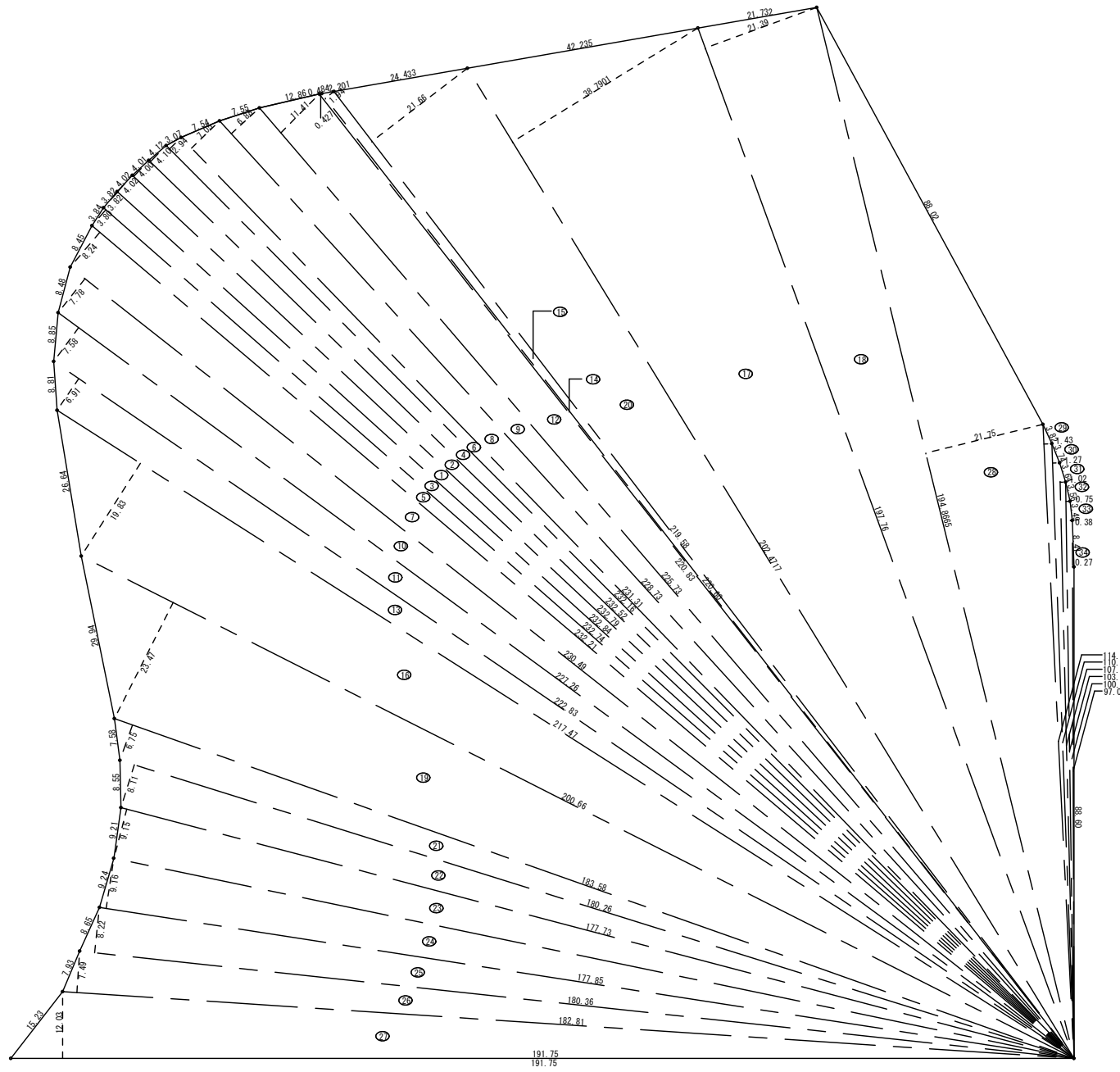


付近見取図

敷地全体配置図

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

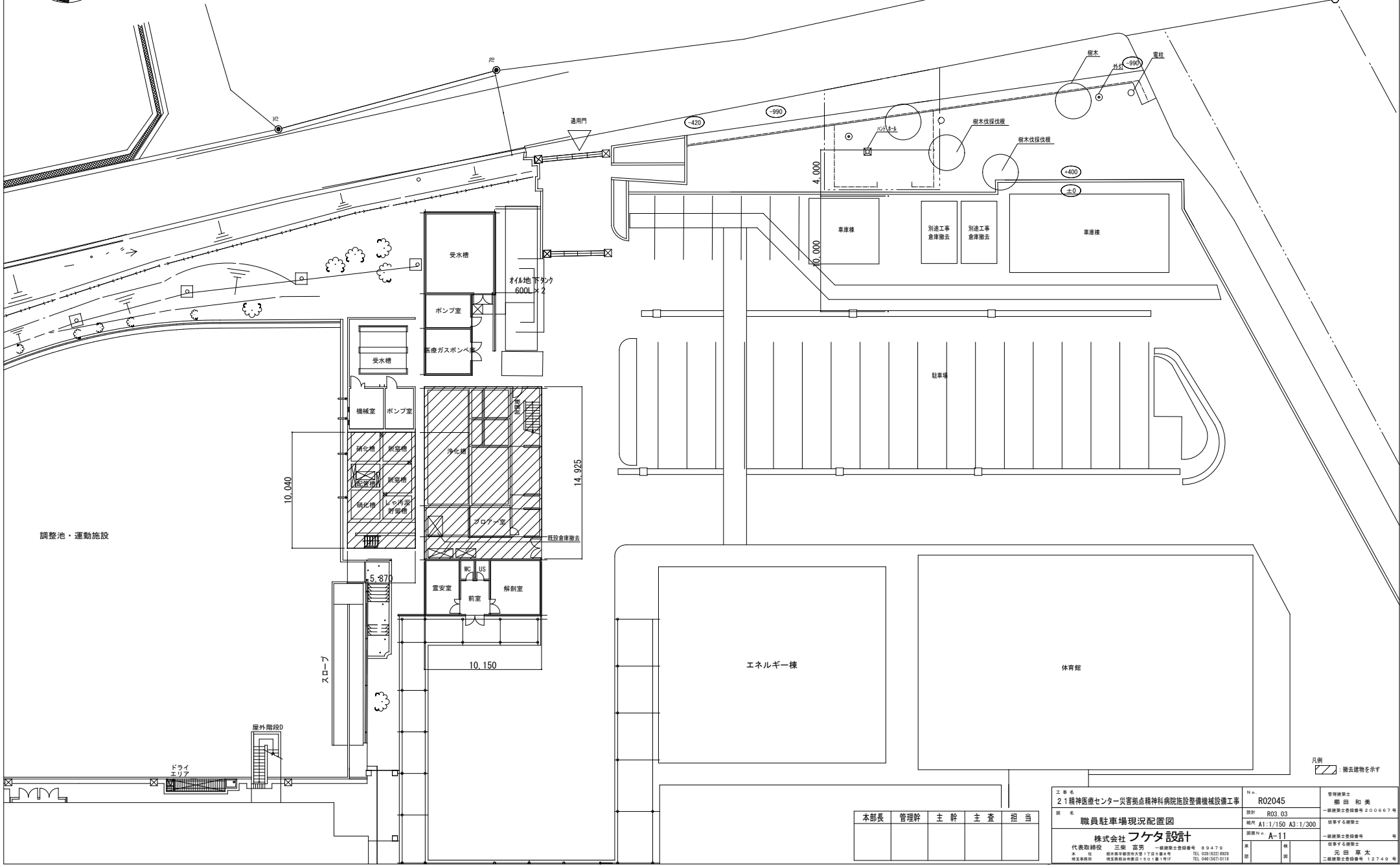
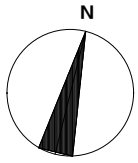
工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	図番 R02045	管理職 三浦 和夫
図名 配置図・付近見取図	種別 R03.03	一般職 藤田 和夫
株式会社 フケタ設計	縮尺 A1:1/400 A3:1/800	一般職 藤田 和夫
代表取締役 三浦 富男 一般職 代表取締役 三浦 和夫 一般職 代表取締役 三浦 和夫 一般職	図番 A-09	一般職 藤田 和夫
埼玉県 さいたま市 さいたま市 さいたま市	枚数 4	一般職 藤田 和夫
埼玉県 さいたま市 さいたま市 さいたま市	枚数 4	一般職 藤田 和夫



番号	底辺	高さ	倍率	面積	面積
1	232.84	4.02	936	0168	468.00840
2	232.79	4.00	931	1600	465.58000
3	232.84	3.82	889	4488	444.72440
4	232.52	4.10	953	3320	476.66600
5	232.74	3.80	884	4120	442.20600
6	232.16	2.94	682	5504	341.27520
7	232.21	8.24	1,913	4104	956.70520
8	231.31	7.05	1,630	7355	815.36715
9	228.73	6.88	1,573	6624	786.83120
10	230.49	7.78	1,793	2122	896.60610
11	227.26	7.58	1,722	6308	861.31540
12	225.73	11.41	2,575	5793	1,287.78965
13	222.83	6.91	1,539	7553	769.87765
14	220.83	0.427	94	29441	47.147205
15	220.60	1.94	427	964	213.982
16	217.47	19.83	4,312	4301	2,156.21505
17	202.4717	38.7901	7,853	89749017	3,926.94874508
18	197.76	21.39	4,230	0864	2,115.0432
19	200.66	23.47	4,709	4902	2,354.74510
20	219.58	21.66	4,756	1028	2,378.0514
21	183.58	6.75	1,238	1650	619.58250
22	180.26	8.11	1,461	9086	730.95430
23	177.73	9.15	1,626	2295	813.11475
24	177.85	9.16	1,629	1060	814.55300
25	180.36	8.22	1,482	5592	741.27960
26	182.81	7.49	1,369	2469	684.62345
27	191.75	12.03	2,306	7525	1,153.37625
28	194.8665	21.75	4,238	346375	2,119.17318175
29	114.47	1.43	163	6921	81.84605
30	110.94	1.27	140	8938	70.44690
31	107.43	1.02	109	5786	54.78930
32	103.94	0.75	77	9550	38.97750
33	100.47	0.38	38	1786	19.08930
34	97.00	0.27	26	19	13.995
合計				30,159	88673758
敷地面積					30,159.98 m ²

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	N. R02045	管理棟士 棚田 和典
設計 R03.03	概算 A1:1/400 A3:1/800	一般棟士 藤田 和典
図面 A-10	図 元田 晋次	一般棟士 藤田 和典
代表取締役 三島 富男	TEL 028(822)8928	二級建築士 藤田 和典
本社 〒650-8501 大阪府大阪市東淀川区西淀川1-10-1	TEL 028(867)9118	



調整池・運動施設

10.040

14.925

スロープ

5.870

10.150

エネルギー棟

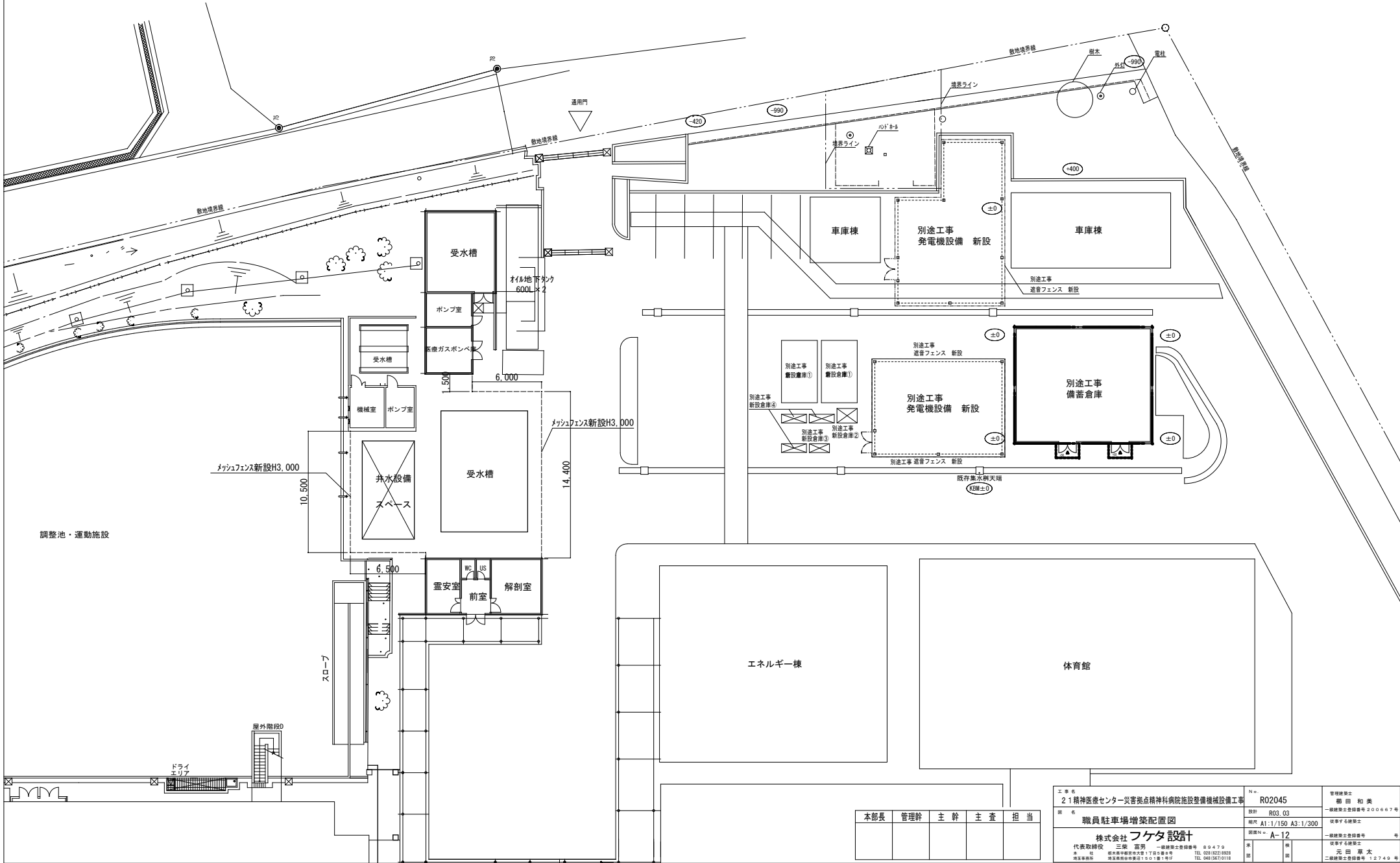
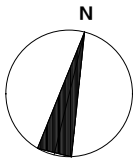
体育館

駐車場

凡例
 撤去建築物を示す

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事		図番 R02045		管理職階級 藤田和典 <small>一級建築士登録番号 200667号</small>
職名 職員駐車場現況配置図		設計 R03.03		従事する職階級 一級建築士登録番号 元田 草次 <small>二級建築士登録番号 12749号</small>
株式会社 フケタ設計 <small>代表取締役 三原 富男 一級建築士登録番号 89479 本社 東京都千代田区千代 1丁目1番1号 TEL. 03(522)3932 埼玉事務所 埼玉県秩父市豊田 1-5-0 1F TEL. 048(567)0118</small>		縮尺 A1:1/150 A3:1/300 A-11		図 紙



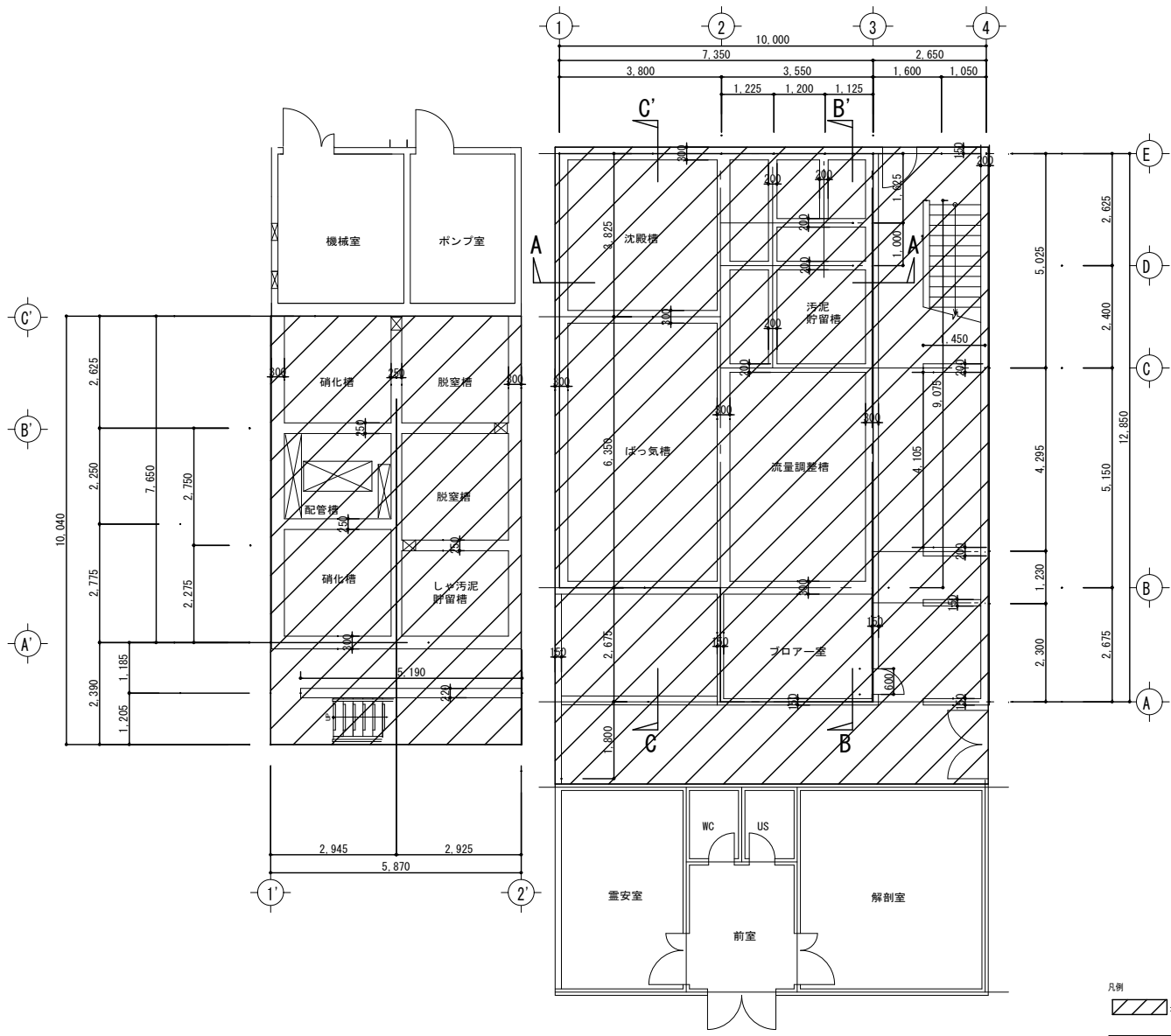
調整池・運動施設

エネルギー棟

体育館

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

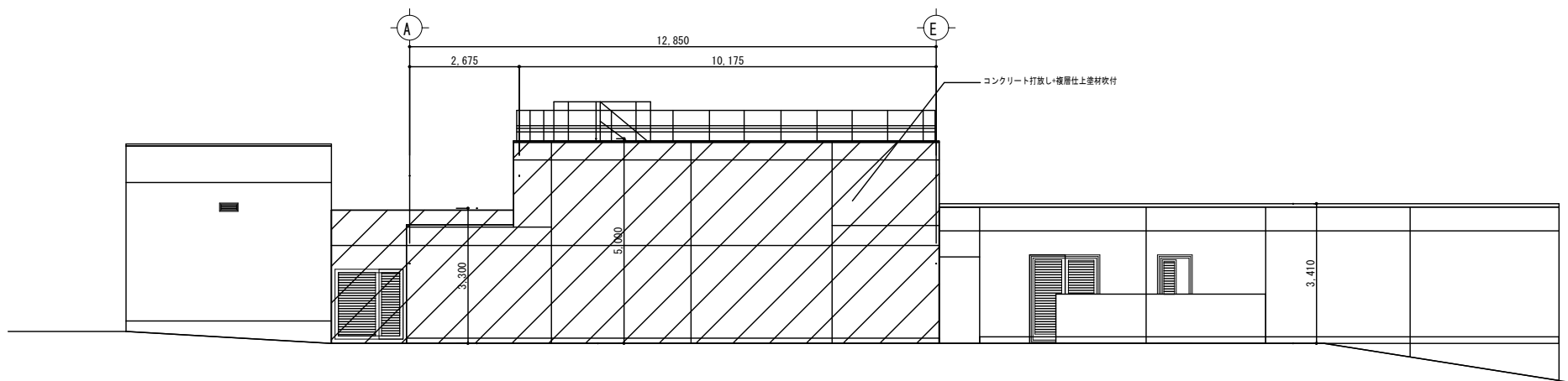
工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	図番 R02045	管理職 藤田和典 一級建築士登録番号 200667号
設計 R03.03	縮尺 A1:1/150 A3:1/300	従事者名 藤田和典
職員駐車場増築配置図		一級建築士登録番号
株式会社 フケタ 設計		元田 卓次
代表取締役 三塚 富男 一級建築士登録番号 89479	本社 東京都中央区新富1-5-1番1号 TEL 03-6221-9333	二級建築士登録番号 12749号
埼玉事務所 埼玉県熊谷市東1-5-1番1号 TEL 048-567-0118		



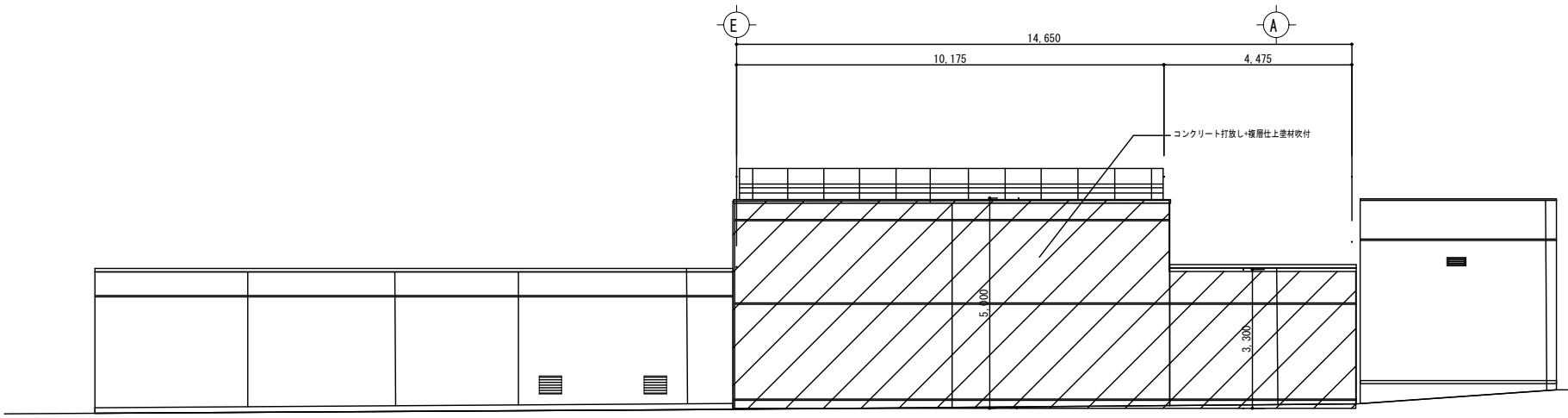
凡例
 解体建物を示す

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

工事名 2.1精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	№. R02045	管理棟別 御田和義
設計 R03_03	概算 A1:1/50 A3:1/100	一般建築士登録番号 200667号
浄化槽解体平面図		解体予定建築士
株式会社 フケタ 設計		一般建築士登録番号
代表取締役 正 塚 寛男 一般建築士登録番号 R0479	図面№. A-13	解体予定建築士
本社 東京都中央区本町1丁目6番6号 TEL: 03(62)18000	支社 東京都中央区本町1丁目6番6号 TEL: 03(62)18000	元 田 康 次
東京事務所 東京都中央区本町1丁目6番6号 TEL: 03(62)18000	大阪事務所 大阪府大阪市東区東1丁目1番1号 TEL: 06(56)71118	一般建築士登録番号 12749号



東側立面図



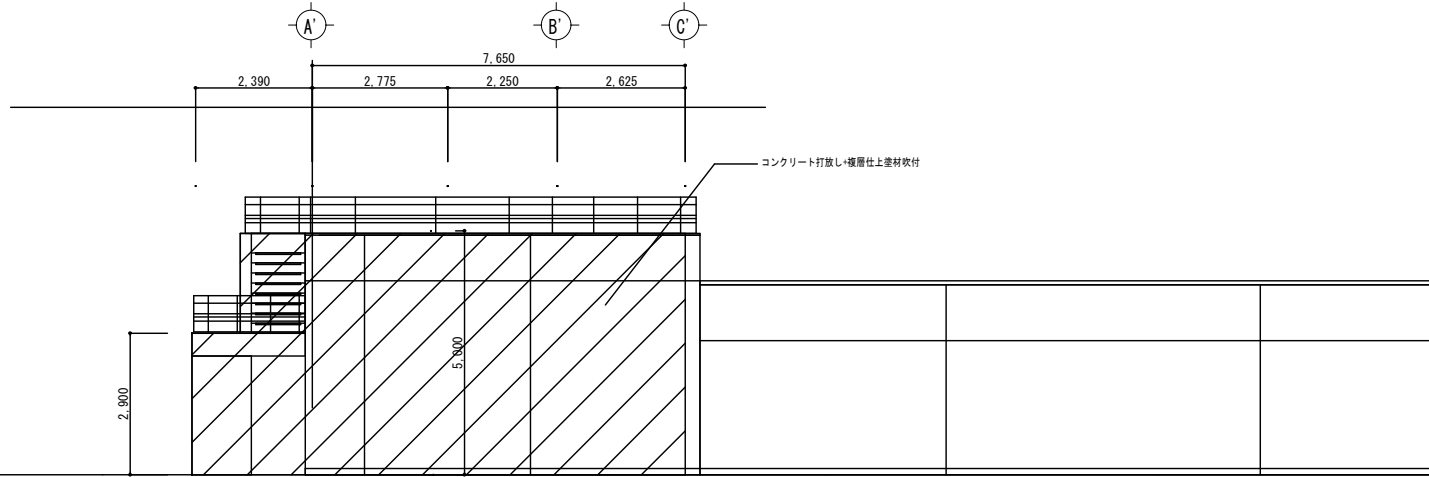
西側立面図

凡例

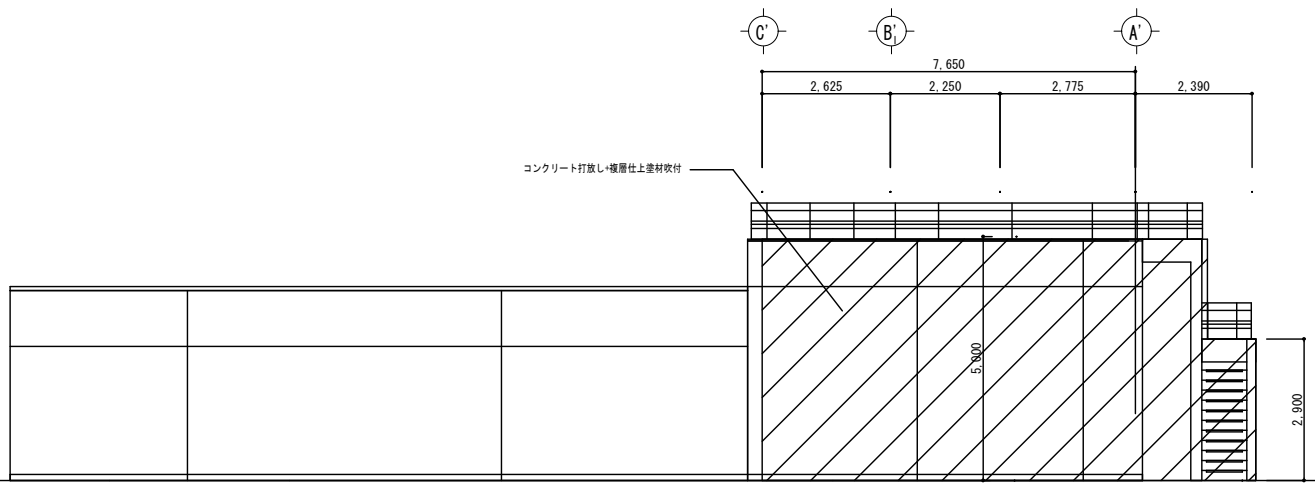
解体建物を示す

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

工事名 2 精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	N. No. R02045	管理棟 2F 一級建築士事務所 200667号
図名 浄化槽解体立面図 1	図号 R03-03	一級建築士事務所
縮尺 A1:1/50, A3:1/100	図面No. A-14	一級建築士事務所
株式会社 フケタ設計	TEL 03(622)8928	一級建築士事務所
代表取締役 三宅 誠一 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL 03(622)8928	TEL 048(307)0118	元田 草太 二級建築士事務所 12749号



東側立面図

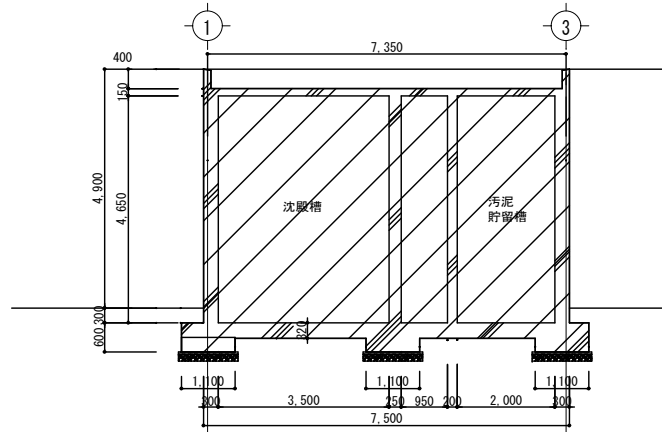


西側立面図

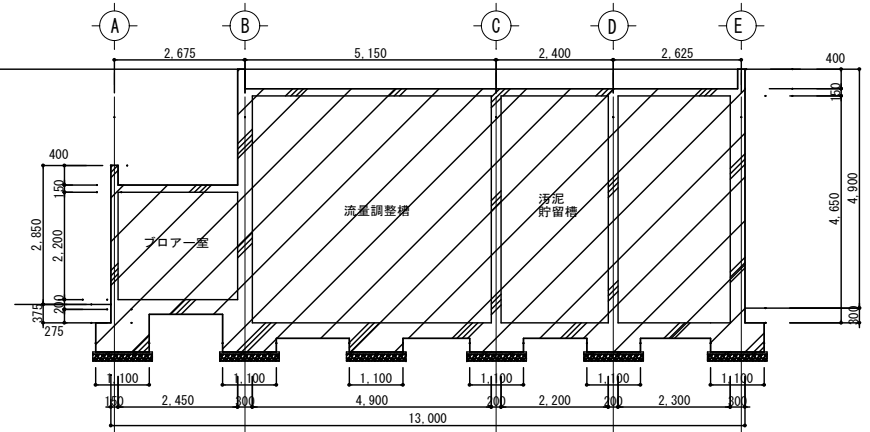
凡例
 : 解体建物を示す

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

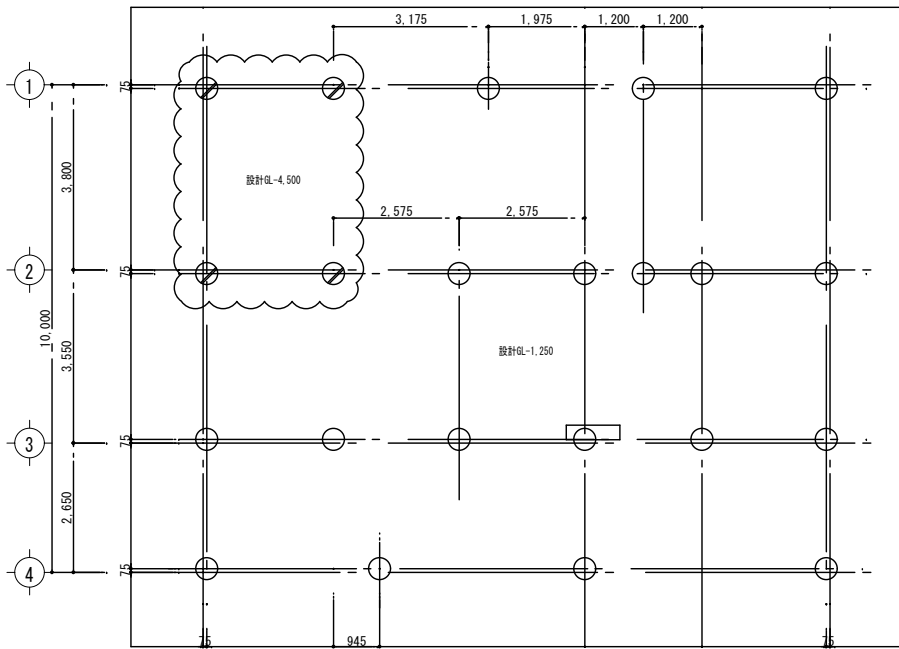
工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	N: R02045	管理棟 2F R03_03	管理棟 和室
図名 浄化槽解体立面図 2	縮尺 A1-1/50 A3-1/100	図面No. A-15	災害対策部 200607 号 災害対策課長
株式会社 フケタ 設計	代表取締役 三宅 富男	一級建築士登録番号 09479	一級建築士登録番号 元田 草太
本社 熊本県熊本市東区下野中 1-1-1 TEL: 098-922-8828	支社 熊本県熊本市東区下野中 1-1-1 TEL: 098-922-8828	TEL: 098-922-8828	TEL: 098-922-8828



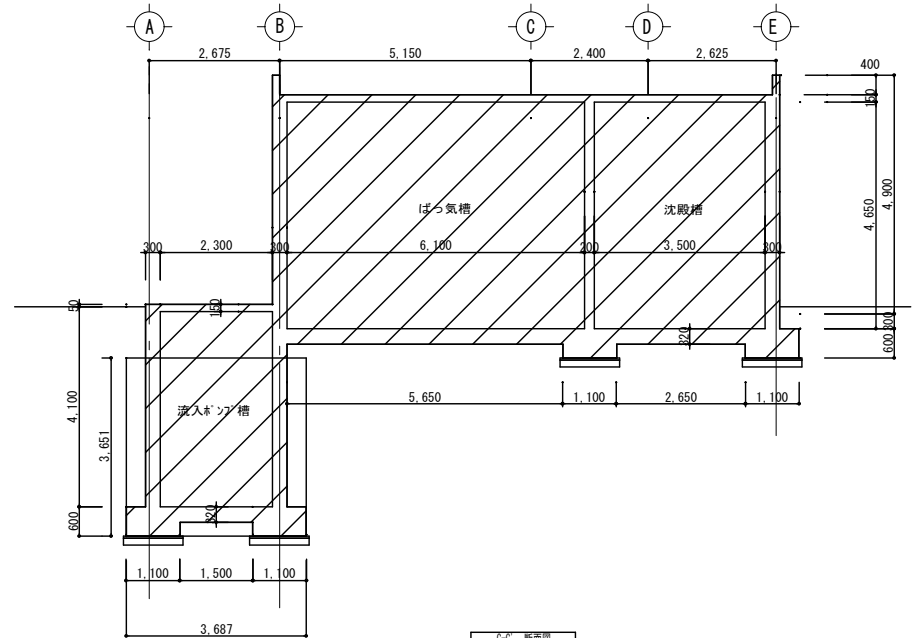
A-A 断面図



B-B 断面図



杭状図



C-C 断面図

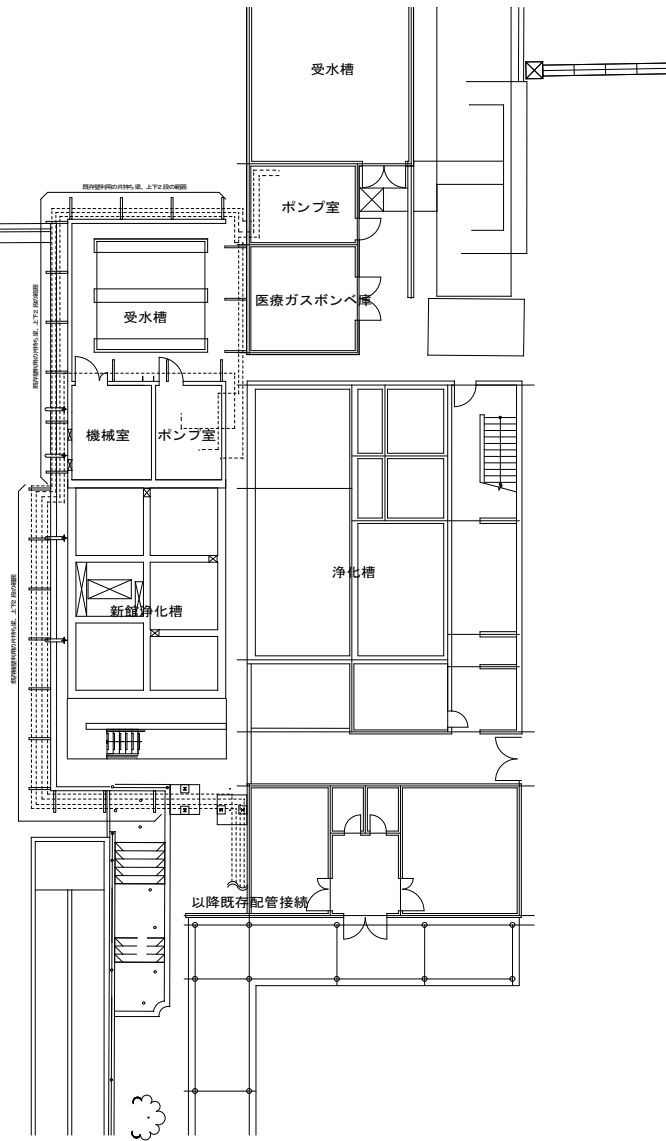
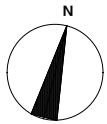
杭種	杭径	杭長 (m)		本数	記号	
		全長	上杭			下杭
PHC杭	450φ	18 m	8 (B種)	10 (A種)	18本	○
"	"	15 m	7 (B種)	8 (A種)	4本	◐

工法 : 中継り根固めの工法
 設計杭耐力 : Ra = 50 t/本
 杭継レベル : 図中に表示。無印は設計GL-1,250
 設計GL=付属棟GL+0.400

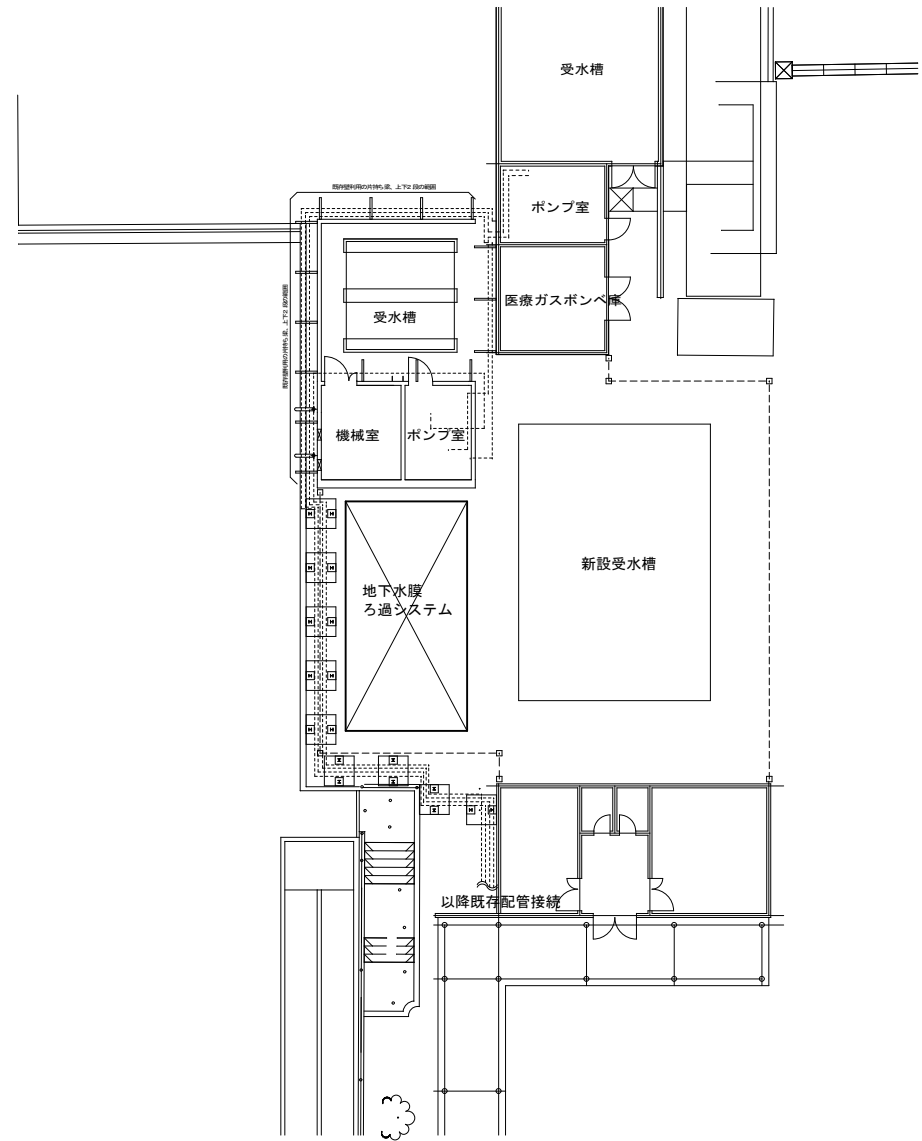
本部長	管理幹	主幹	主査	担当

凡例
 解体建築物を示す

工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	№ R02045	管理棟 藤田和典
設計 R03.03	設計 A1.1/50 A3.1/100	設計 藤田和典
設計 株式会社 フケタ設計	図面 A-16	設計 元田草太
代表取締役 三原 潤男	TEL 080-3521-9928	TEL 080-3521-9928
代表取締役 元田 草太	TEL 080-3521-9928	TEL 080-3521-9928



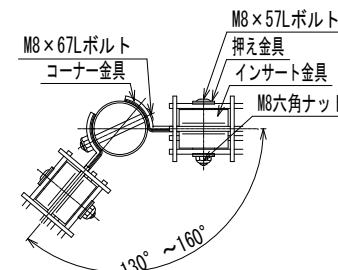
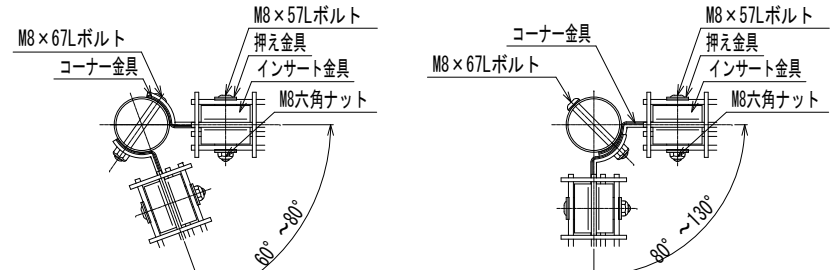
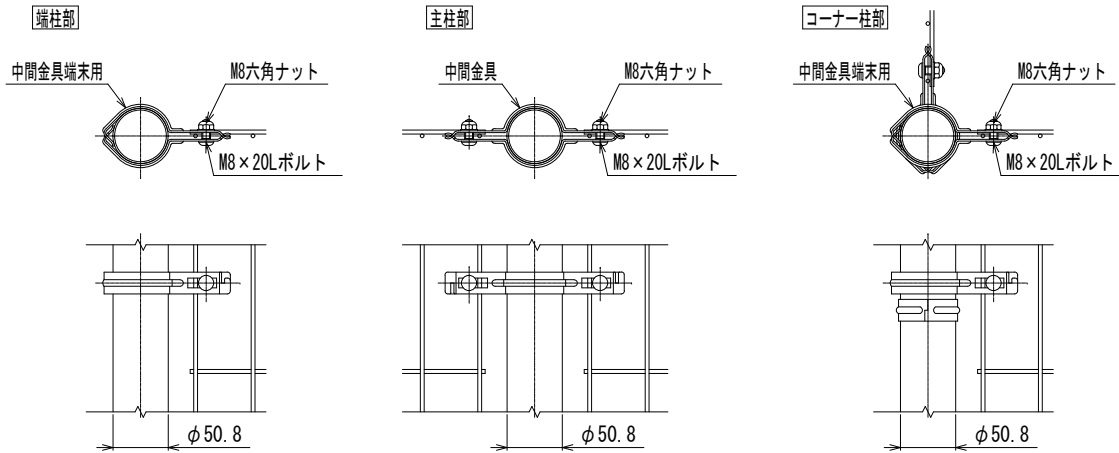
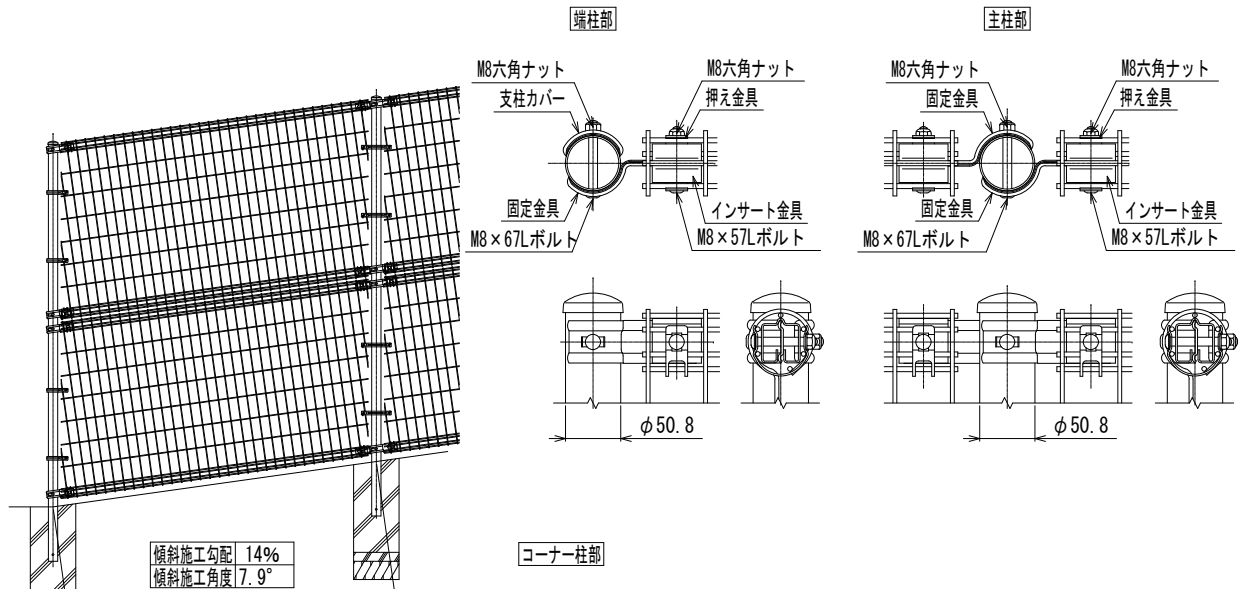
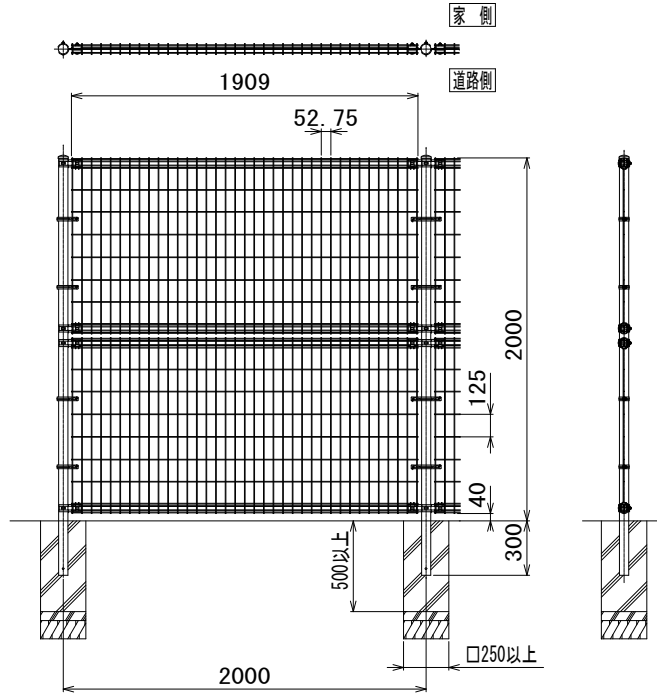
設備配管架台配置図 (浄化槽解体前)
※片持ち梁、架台詳細図は構造図参照



設備配管架台配置図 (浄化槽解体後)
※片持ち梁、架台詳細図は構造図参照

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

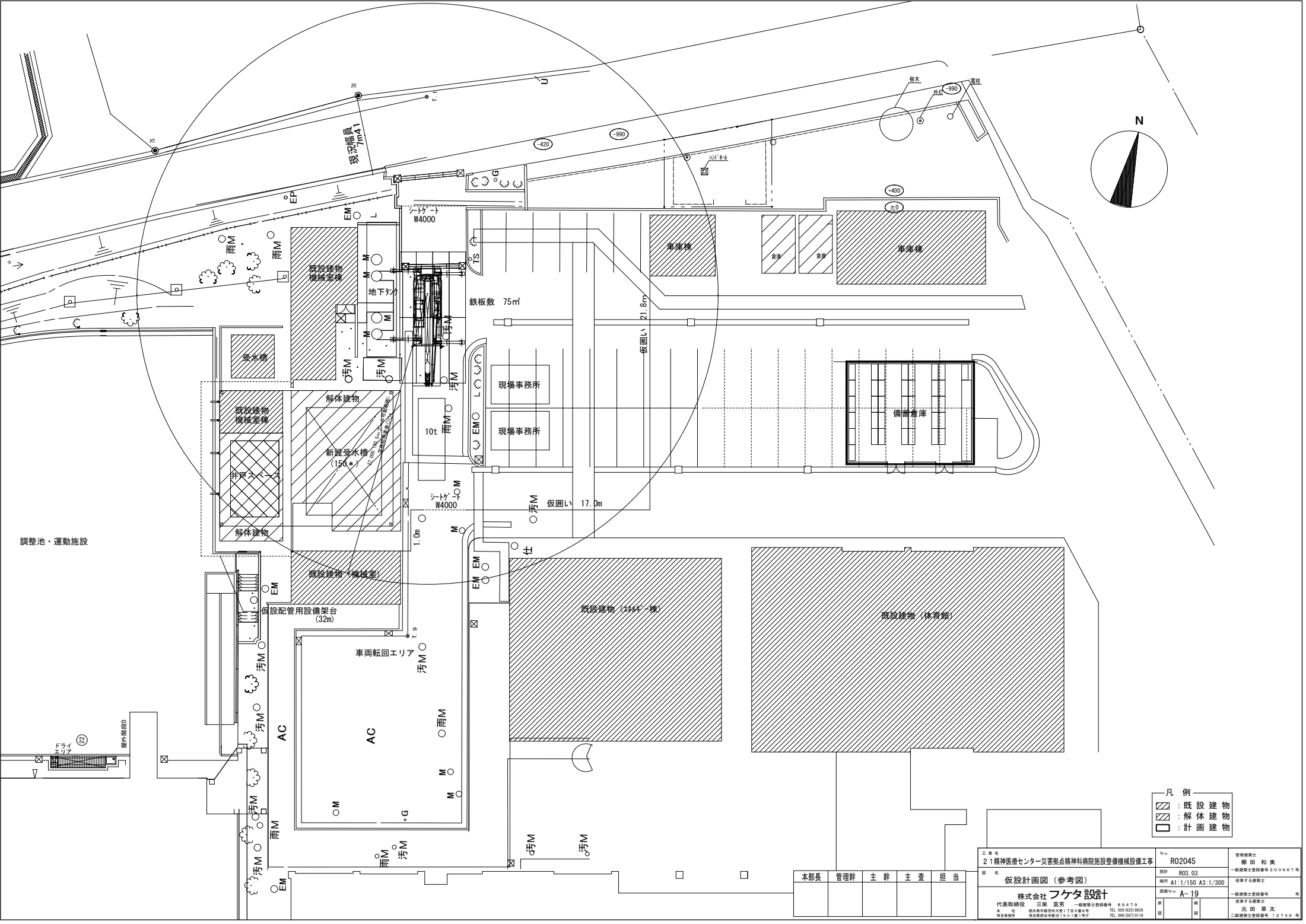
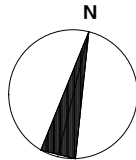
工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	No. R02045	管理棟監事 藤田 和美
設計 R03.03	図面No. A-17	一級建築士登録番号 200667号
設備配管架台配置図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	保守する建築士
株式会社 フケタ 設計	代表取締役 三橋 富男	一級建築士登録番号 元田 草太
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1	TEL 03(622)8926 TEL 043(567)0112	二級建築士登録番号 12749号



ボルト・ナット類	(SWCH・SPCC)
金具類	(SGH) ポリエステル粉体塗装
本体	(SMMGH-3) アクリル流動浸漬塗装
支柱	φ50.8×t2.3 (STK) (Zn・Al・Mg合金メッキ) ポリエステル粉体塗装
主要部材	仕様(材質・塗装)
型式コード	LMF10-2020 <input type="checkbox"/>
品名	LMF10型

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

工事名	2.1精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	N.	R02045	管理幹	藤田 和典
設計	RO3_03	一般幹	土井 隆平	設計	RO3_03
図面	メッシュフェンス 詳細図	縮尺	A1: 1/15 A3: 1/30	図面	A-18
代表取締役	三橋 高男	一般幹	土井 隆平	図面	元田 草太
本社	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1	TEL	03-5561-0000	図面	二橋 隆平
埼玉事務所	〒300-0001 埼玉県さいたま市大宮1-1-1	TEL	048-567-0118		



- 凡例
- 既設建物
 - 解体建物
 - 計画建物

本部長	管理幹	主任	主査	担当

工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	No. R02045	管理棟長 棚田和典
設計 R03_03	概尺 A1:1/150 A3:1/300	一級建築士登録番号 200667号
仮設計画図 (参考図)		図案 A-19
株式会社 フケタ設計		一級建築士登録番号 元田草次
代表取締役 三原 晋男	TEL 03(32)8928	二級建築士登録番号 12749号
本社 東京都中央区本町1丁目5番8号	TEL 048(367)0118	
埼玉事務所 埼玉県春日部市東1丁目1番1号		

6.2 帯筋

(a) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。

(b) 帯筋組立の形は図6.3による。適用は設計図による。

(1) H形の15° 曲りのフックが図6.3に示す場合は、W-1形とする。

(2) 溶接する場合の溶接長さLは、両面溶接A型溶接の場合は5d以上、片面溶接A型溶接の場合は10d以上とする。

(3) S P形において、柱頭及び柱頭の端部は1.5倍以上の溶接を行う。

①H形

(イ) (ロ) (ハ) (ニ)

②W-1形

(イ) (ロ) (ハ) (ニ)

③W-2形

(イ) (ロ) (ハ) (ニ)

④W-3形

(イ) (ロ) (ハ) (ニ)

注：溶接は、鉄筋の組立前に行う。

⑤S P形（スライラ筋）

(イ) (ロ)

⑥大形

(イ) (ロ)

(注) ③W-2形、④W-3形は耐震改修工事のみ

(c) フック及び継手の位置は交互とする。

(d) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。

柱梁接合部の帯筋の取り回しについて

①接合部帯筋の間隔は、下階柱の一般部の上下の断面寸法が異なる場合は、帯筋は、柱内定着の帯筋又は前後の鉄筋を束ねたものとする。

②一般部帯筋に中子筋がある場合は、接合部帯筋の中子筋は不要とし、間隔は1.5倍とする。

③一般部帯筋に高強度せん断補強を用いた場合は、接合部帯筋も高強度せん断補強を用い、間隔は1.5倍とする。

梁面より割り付ける。

(注) 1. 柱に取り付く梁に接合部がある場合、帯筋の間隔を1.5dまたは1.5d \times とするとする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。

2. 図中のP ϕ は、P ϕ は、特記された帯筋の間隔を示す。

7.1 大梁

(a) 一般事項

(1) 梁の上り下り及びFlを基準とした法線とする。

(2) 地下梁下の砂利地層及び地下コンクリート地層は設計図による。

(3) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。

(b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

1. 継手中心位置は、次による。

上階筋：中央（図7.1(イ)）

下階筋：柱面より梁せい（D）以上とし、 $\frac{D}{4}$ を加えた範囲以内

(2) 継手中心部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。

(3) 梁筋は、連続縁で柱に接する梁の主筋が、同数の時柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は、図7.1のように対称的に梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

図7.1 梁主筋の梁内定着

(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

なお、定着の方法は(3)(b)による。

上階筋：曲げ降す

下階筋（一般）：原則、曲げ上げる

下階筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

(5) 梁にハンチをつける場合、その精削は設計図による。

(6) 段違いは、図7.2による。

図7.2 段違い梁

(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(注) 1. 梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下階の両端にある場合（基礎を除く）には、フックを付与する。

2. 印は、継手及び余長を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

(注) 1. 梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下階の両端にある場合（基礎を除く）には、フックを付与する。

2. 印は、継手及び余長を示す。

3. 梁内定着の端部下階筋が接するときは、フックを付与する。

4. 破線は、柱内定着を示す。

5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

※ 40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.3に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

7.2 あばら筋等

(a) あばら筋、縦筋及び幅止め筋の一般事項

(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。

(2) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さは、定着長さは設計図による。

(3) 幅止めの筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

(b) あばら筋の配筋の方法及びフックの位置

(1) 別は、図7.5(イ)とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)または(ハ)、T形梁の場合は(ニ)～(ニ)とすることができる。

(2) フックの位置

Ⅰ.(イ)の場合には交互とする。

Ⅱ.(ロ)の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。

Ⅲ.(ハ)の場合は床版の付く側を90°折り曲げとする。

図7.5 あばら筋組立の形

(イ) (ロ) (ハ) (ニ)

(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2. 印は、余長位置を示す。

図7.6 あばら筋の割付け（その1）

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 図中のP ϕ は、P ϕ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け（その2）

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 図中のP ϕ 、P ϕ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け（その3）

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 幅止めの筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

図7.9 腹筋および幅止め筋

(1) 一般の梁は、図7.9による。

2-D10 2-D10 2-D10 2-D10

600 \leq D<900 900 \leq D<1,200 1,200 \leq D<1,500

1. 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。

2. 幅止めの筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合は、図7.10による。

(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2. 印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(b) 単独小梁の場合は、図7.11による。

図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

(a) あばら筋は、7.2による。

(c) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一律でハンチのない場合は、図7.6による。

図7.6 あばら筋の割付け（その1）

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 図中のP ϕ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

(2) 間隔が一律でハンチのある場合は、図7.7による。

図7.7 あばら筋の割付け（その2）

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 図中のP ϕ 、P ϕ は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。

図7.8 あばら筋の割付け（その3）

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2. 幅止めの筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

図7.9 腹筋および幅止め筋

(1) 一般の梁は、図7.9による。

2-D10 2-D10 2-D10 2-D10

600 \leq D<900 900 \leq D<1,200 1,200 \leq D<1,500

1. 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。

2. 幅止めの筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合は、図7.10による。

(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2. 印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(b) 単独小梁の場合は、図7.11による。

図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

(a) あばら筋は、7.2による。

7.3 小梁

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合は、図7.10による。

(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2. 印は、余長位置を示す。

図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(b) 単独小梁の場合は、図7.11による。

図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

(a) あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長

(1) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. 印は、余長位置を示す。

3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからぶり厚さを除いた長さとする。

(2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。

図7.13 片持梁主筋の定着

(注) 1. 図示のない場合は、(1)による。

2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着とする。

3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

(b) あばら筋は、7.2による。

片持梁の拘束筋要領

片持梁の先端

8.1 壁

(a) 一般事項

(1) 壁筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さとし、定着長さをとしとする。

(2) 幅止め筋は、縦筋ともD10-1,000程度とする。

(3) EMO、EMOの配筋はMO、KMOと同じで、かぶり厚さ、定着長さ及び継手長さは、3.4による。

(4) 打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ等の定着長さには打増し部分を含まない。

図8.1 壁の配筋

※ 耐力壁については、40d（軽量コンクリートの場合は、50d）と表3.1に示す直線定着の長さのうち大きい値以上とする。

(b) 壁の配筋は設計図による。

(c) 片持スラブ階段を受ける壁の配筋は設計図による。

(注) 縦筋は、階段の外側に配筋する。

(d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

8.2 一般壁の補強

(a) 壁間口部の補強

(1) 壁間口部の補強筋は、構造図による。

(2) 壁間口部補強の定着長さは、図8.3による。

図8.3 壁間口部補強筋の定着長さ

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

9.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上り下り及びFlを基準とした法線とする。

(2) 土間スラブ下の砂利地層及び捨てコンクリート厚は設計図による。

(3) 土間コンクリート補強筋(D10)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。

(4) スラブの配筋（S筋配筋）は図9.1により、配筋種類及びスラブ厚さは、設計図による。

図9.1 スラブの配筋

(e) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着とする。

3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

(f) 柱梁面と壁面が同一の場合

(1) 柱に定着する場合

(2) 通し筋とする場合

図8.3 柱主筋の外側を通る縦筋の柱への定着方法

(1) 柱に定着する場合

(2) 通し筋とする場合

図8.4 梁主筋の外側を通る縦筋の梁への定着方法

(1) 先端90°フックとする場合

(2) 先端を斜めに折り曲げる場合

図8.5 筋折曲げ形状と寸法

・壁筋が帯筋・あばら筋から離れた位置となる場合は、90°フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋・あばら筋内に定着する。

8.2 一般壁の補強

(a) 壁間口部の補強

(1) 壁間口部の補強筋は、構造図による。

(2) 壁間口部補強の定着長さは、図8.3による。

図8.3 壁間口部補強筋の定着長さ

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

9.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上り下り及びFlを基準とした法線とする。

(2) 土間スラブ下の砂利地層及び捨てコンクリート厚は設計図による。

(3) 土間コンクリート補強筋(D10)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。

(4) スラブの配筋（S筋配筋）は図9.1により、配筋種類及びスラブ厚さは、設計図による。

図9.1 スラブの配筋

工事名	21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	№	R02045	管理棟	和興
設計	RO3_03	一般設計士登録番号	200667号	事務棟	和興
監理		一般設計士登録番号		事務棟	和興
代表取締役	三原 富男	一般設計士登録番号	8947号	事務棟	和興
代表取締役	三原 富男	一般設計士登録番号	8947号	事務棟	和興
代表取締役	三原 富男	一般設計士登録番号	8947号	事務棟	和興
代表取締役	三原 富男	一般設計士登録番号	8947号	事務棟	和興

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

- (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
 (6) 鉄筋の重ね継ぎ手長さは、40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3に示す長さとし、重ね継ぎ手長しのうち大きい値以上とする。
 (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
 ただし、引き違えることができない場合は、図9.3により案内に定着する。

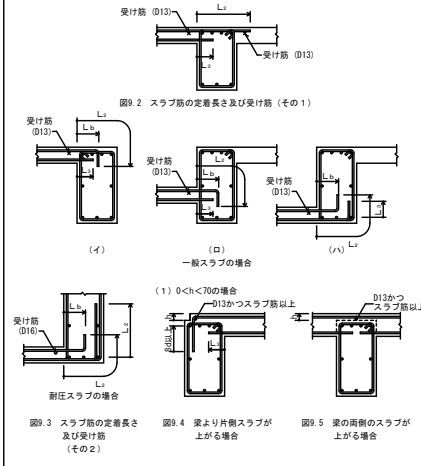


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)
 図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

9.2 片持スラブ

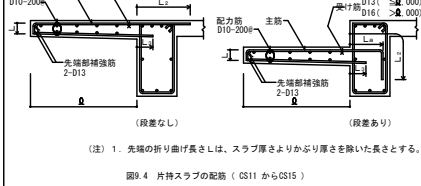


図9.4 片持スラブの配筋 (CS11 からCS15)
 図9.5 片持スラブの配筋 (CS16及びCS17)

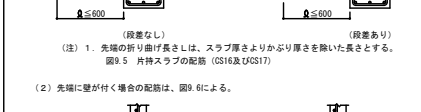
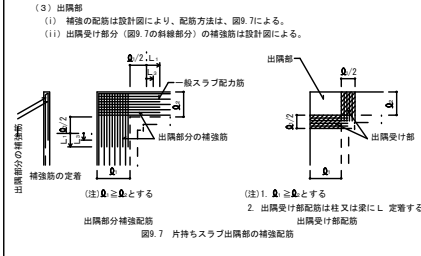
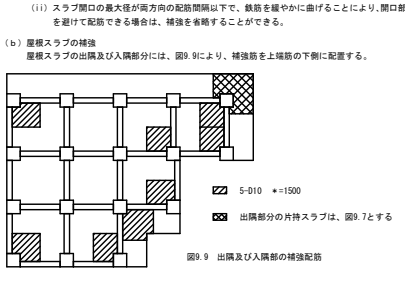
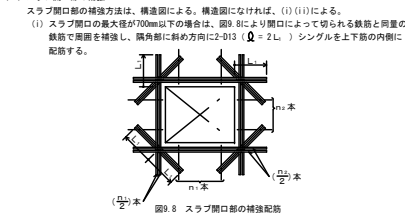


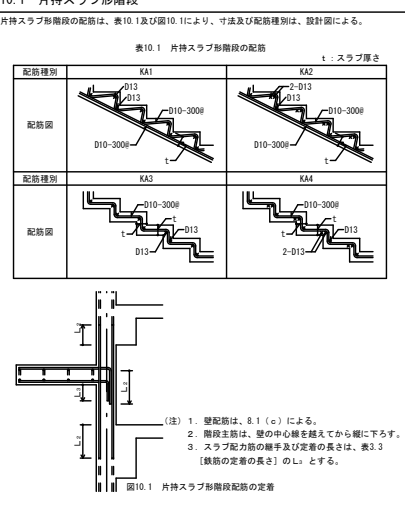
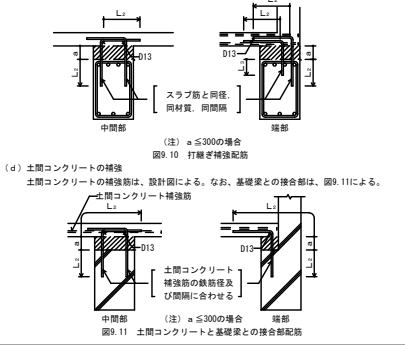
図9.6 先端に壁が付く場合の配筋
 図9.7 片持スラブ出隅部の補強配筋



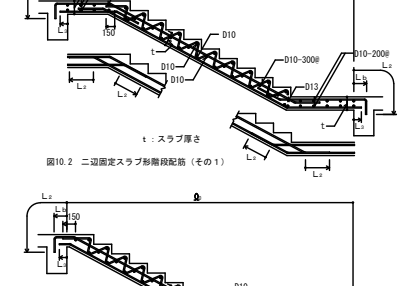
9.3 スラブ等の補強



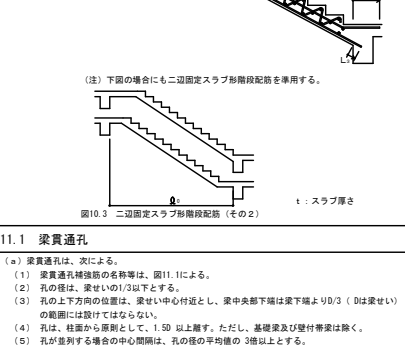
10.1 片持スラブ形階段



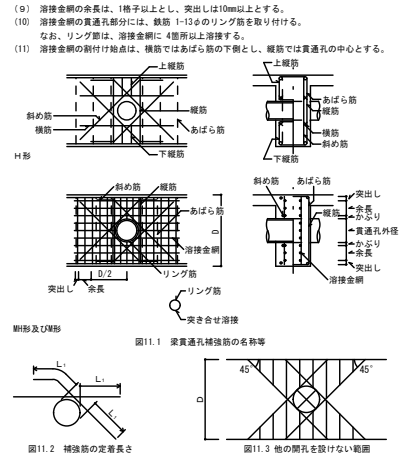
10.2 二辺固定スラブ形階段



10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)



10.4 土間コンクリートの補強



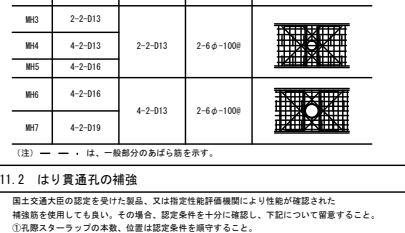
11.1 梁貫通孔



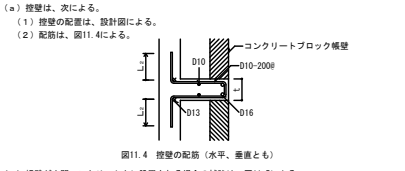
表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

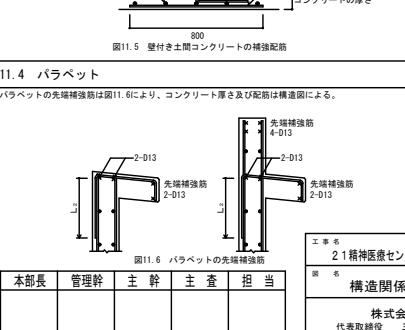
11.2 はり貫通孔の補強



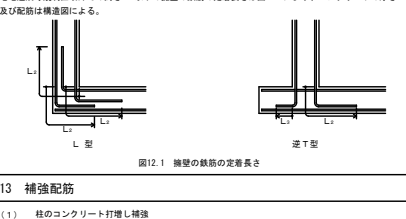
11.3 コンクリートブロック壁との取合い



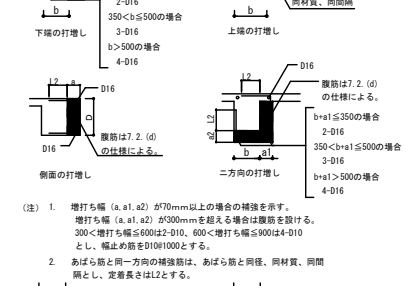
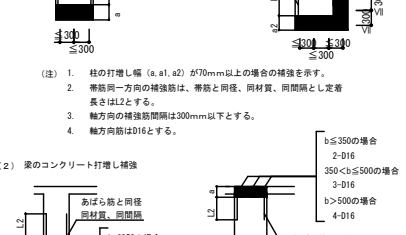
11.4 パラベット



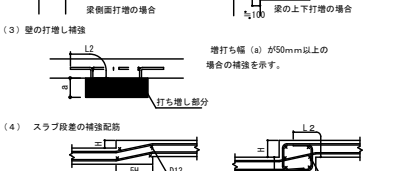
12 擁壁



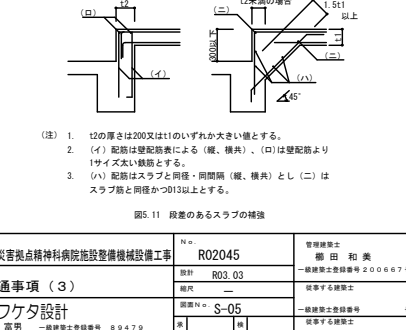
13 補強配筋



13.1 柱の打直し補強



13.2 梁の打直し補強

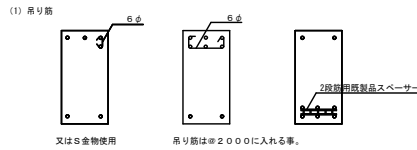


工番 21
 21 精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事
 設計 R03.03
 監理 S-05
 株式会社 フケタ設計
 代表取締役 三原 富男 一般社団法人 建設業 8947-0
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
 電話 03-5571-0118

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

管理棟 藤田 和典
 一般社団法人建設業 20066-9
 従事する職名
 一般社団法人建設業
 専任 元田 肇太
 二級建築士登録番号 12749

14 吊り筋仕様及びスペーサの配置

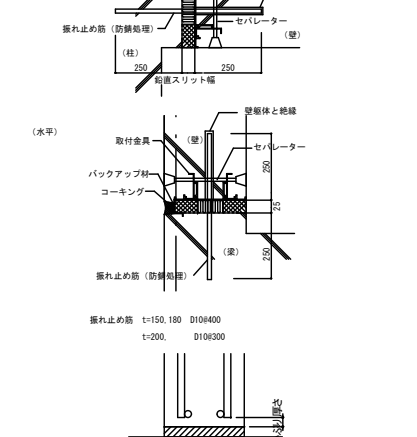


(1) 吊り筋
又はS金物使用
吊り筋はφ2000に入れる事。

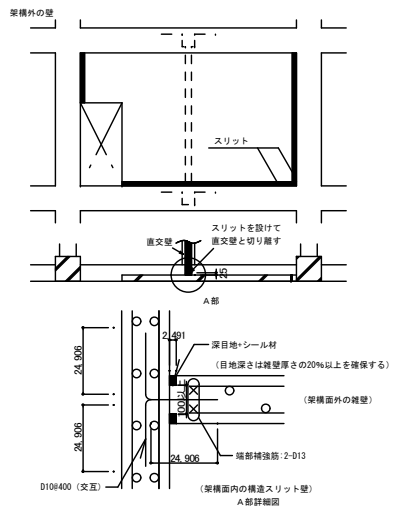
(2) スペーサの個数は、下表を標準とする。また、スラブ下層筋の梁部は、かぶり厚さが足りなくなる場合が多いので注意する。なお、モルタル製のスペーサは使用しない。

部位		スラブ	壁	梁	柱
個数	上層	1.3個/m ² 程度	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上層は梁より10.5m程度 中段は梁と梁の間 端部は1.5m以内	上層下より10.5m程度 中段は梁と梁の間 端部は1.5m程度
	下層	1.3個/m ² 程度	1.0以上3個	1.0以上3個	端部は1.5m以内

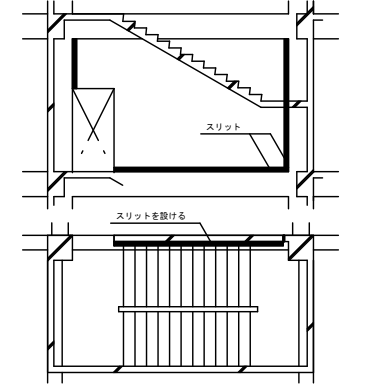
15 構造スリット詳細



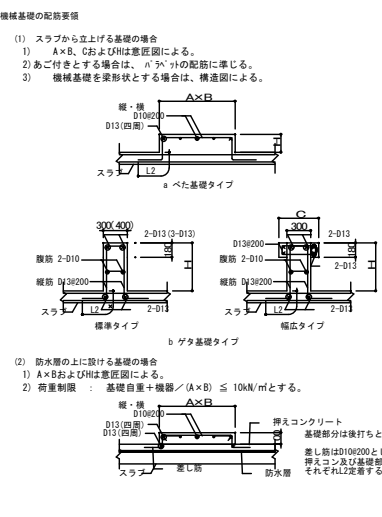
(注) 1. 鉛直スリット幅は2次壁の高さの1/100以上とする。
2. 振れ止め筋は防錆処理を行い、養生材を用いて壁躯体とは絶縁すること。
3. 壁の縦筋と水平スリット材とはスペーサ等によりかぶり厚さを確保すること。



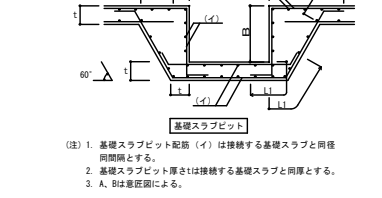
階段を支持する壁にスリットを設ける場合



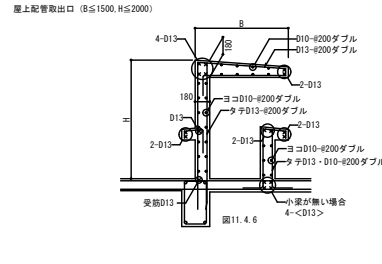
16 雑詳細図



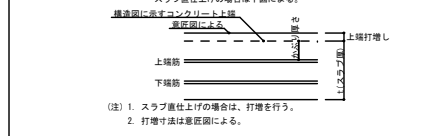
差筋の配筋要領



ハト小屋の配筋要領

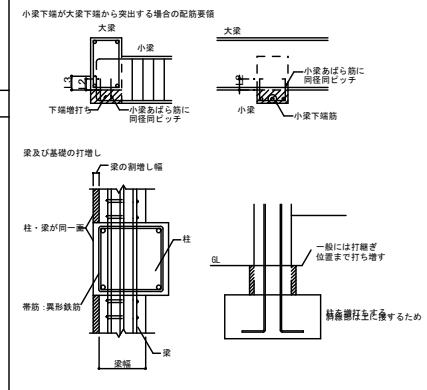


床スラブ増し打要領

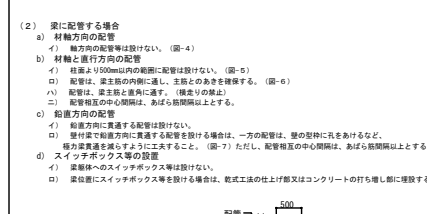
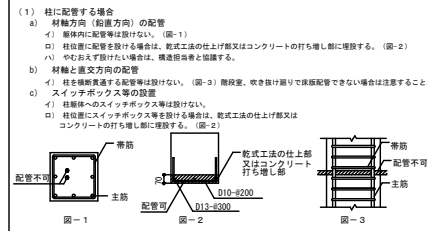


(注) 1. スラブ直上上げの場合は、打増を行う。
2. 打増け法は意匠図による。

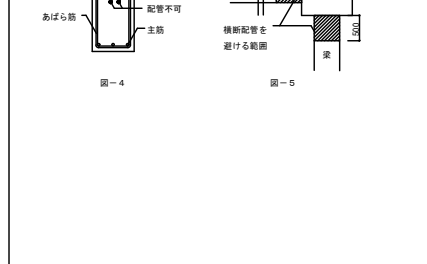
床スラブ増し打コンクリート配筋	構造スラブ厚	床スラブ増し打コンクリート厚	配筋補強
構造スラブ厚	80 ≤ < 200mm	80 ≤ < 80mm	配筋不要
	200 ≤ < 300mm	80 ≤ < 200mm	D10φ200 シングル
	300 ≤ < 400mm	80 ≤ < 400mm	D10φ100 シングル
	400 ≤	D10. D10φ100 シングル	



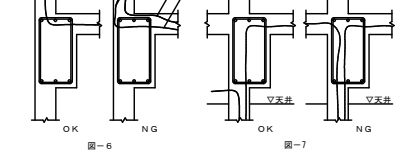
17 設備配管等の注意事項



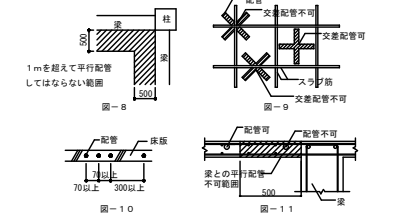
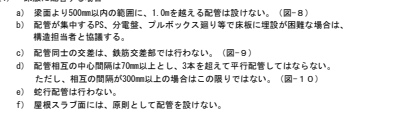
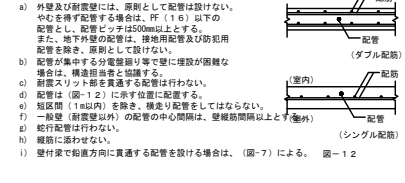
設備配管等の注意事項



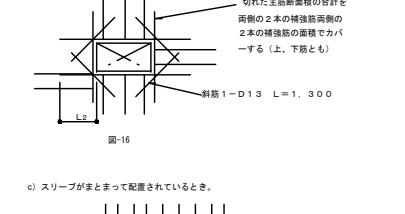
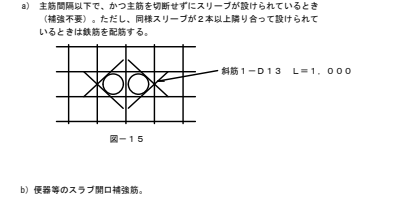
18 地下外壁の配筋要領



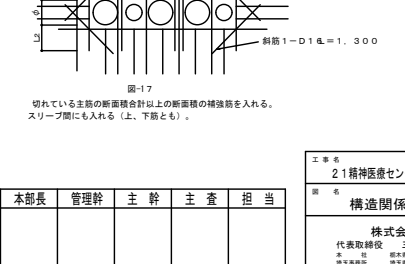
(3) 壁に配管する場合



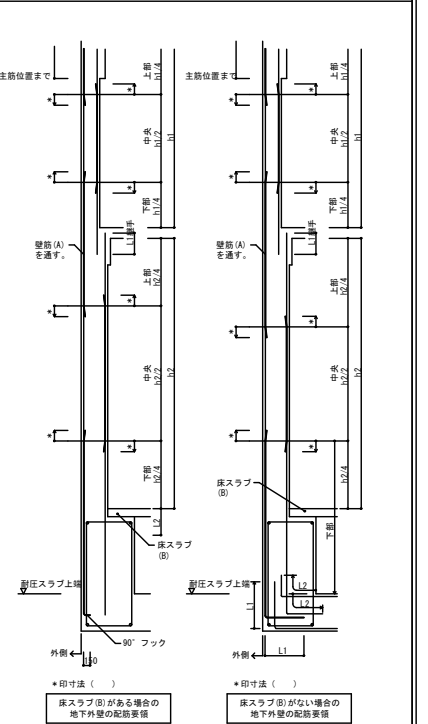
(5) 床に開口補強する場合



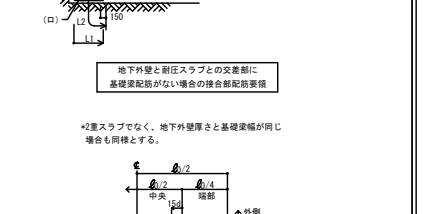
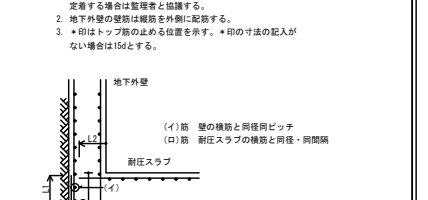
地下外壁の配筋要領



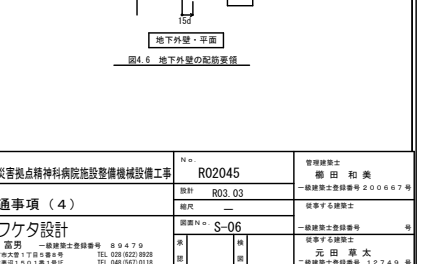
18 地下外壁の配筋要領



(注) 1. 地下外壁縦筋(A)を通すことを原則とする。但し施工上原因に



地下外壁の配筋要領

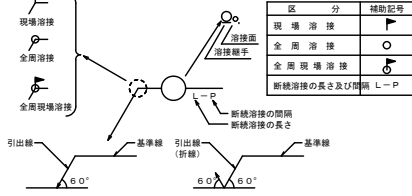


構造関係共通図 (鉄骨標準図)

表1.1 溶接継手及び溶接面の分類記号

分	種	記号
溶接継手	完全溶込み溶接	突合溶接継手 T形継手 L形継手 かみ継手
	隅肉溶接	F
	部分溶込み溶接	P
	重ねアーク溶接 (フラア溶接)	FL
	片面溶接	1
溶接面	両面溶接	2

表1.2 溶接の補助記号



※特記無き限り、完全溶込み溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

図1.1 溶接記号の記載例

1-2 溶接継手の種類別開先標準

突合わせ継手 (B) の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接) 及びセルシールドアーク溶接		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$	$12 < t \leq 22$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$

T型継手 (T) の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接) 及びセルシールドアーク溶接		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$	$12 < t \leq 22$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$

部材が直交しない場合の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$

かど継手 (L) の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接) 及びセルシールドアーク溶接		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$	$12 < t \leq 22$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$

隅肉溶接 (F) の開先標準

(単位: mm)		
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	16 < t ≤ 40
$t \leq 16$	$t \leq 16$	$16 < t \leq 40$

隅肉溶接のサイズ

(単位: mm)	
t	s
4	3
5	4
6	5
7	6
8	7
9	8
10	9
11	10
12	11
13	12
14	13
15	14
16	15
17	16
18	17
19	18
20	19
21	20
22	21
23	22
24	23
25	24
26	25
27	26
28	27
29	28
30	29
31	30
32	31
33	32
34	33
35	34
36	35
37	36
38	37
39	38
40	39

部分溶込み溶接 (P) の開先標準

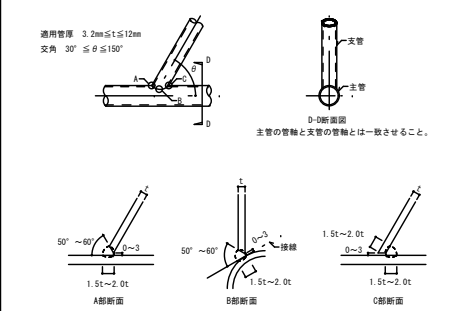
(単位: mm)	
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$	$16 \leq t \leq 40$

重ねアーク溶接 (フラア溶接) (FL) の開先標準

(単位: mm)			
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼U形溶接)
$t \geq 30$ のとき $s = t$ $t < 30$ のとき $s = 8$	$t \geq 30$ のとき $s = t$ $t < 30$ のとき $s = 8$	$t \geq 30$ のとき $s = t$ $t < 30$ のとき $s = 8$	$t \geq 30$ のとき $s = t$ $t < 30$ のとき $s = 8$

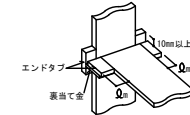
1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開加工を行う場合はこの限りではない。



1-4 鉄骨溶接施工

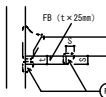
- (a) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。
- (b) エンドタブ
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。ゲージタブ、セラミックタブ等を使用する場合は、あらかじめ、監督官の承認を受けること。



溶接方法	Qn
手溶接	35以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	7以上

(c) 裏当て金

- (1) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。
- (2) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)	
裏当て金の厚さ	s
t ≤ 9	5
t > 9	9

1-1 縁端距離及びボルト間隔

- (a) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.3による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが耐力方向に3本以上並ばない場合は縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.3 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

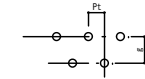


(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.4による。

表1.4 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)

ゲージ E	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	M24
35	M12, M20, M22	65
40		60
45		55
50		50
55		45
60		40



(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.5による。

表1.5 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

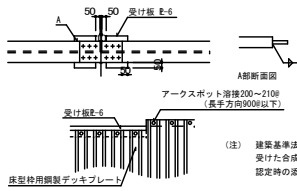
A又はB	E1	E2	最大軸径	B			最大軸径	B	E1	最大軸径
				E1	E2	E3				
45	25	12	100	56	16	50	30	12		
50	28	16	125	75	16	65	35	20		
60	35	16	150	90	22	70	40	20		
65	35	20	175	105	22	75	40	22		
70	40	20	200	120	24	80	45	22		
75	40	22	250	150	24	90	50	24		
80	45	22	300	150	40°	24	100	55	24	
90	50	24	350	140	70	24				
100	55	24	400	140	90	24				
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1 千鳥打ちとした場合

工事名	21 精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	工番	R02045	管理職	藤田 和典
設計	R03_03	監理	一級建築士登録番号 200667号	設計	藤田 和典
監理	構造関係共通事項 (5)	監理	従事する技師	監理	藤田 和典
設計	株式会社 フケタ設計	監理	S-07	監理	一級建築士登録番号
代表取締役	三原 富男	一級建築士登録番号	89470	監理	一級建築士登録番号
〒114 東京都葛飾区新小岩1-7-10 1F	TEL 048-0221-9332	〒114 東京都葛飾区新小岩1-7-10 1F	TEL 048-0221-9332	監理	元田 基次
構造関係共通事項 (5)	TEL 048-0221-9332	構造関係共通事項 (5)	TEL 048-0221-9332	監理	二級建築士登録番号 12749号

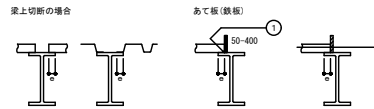
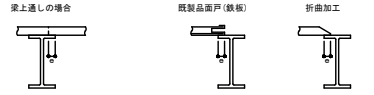
本部長	管理幹	主幹	主査	担当

(d) デッキプレート（キーストンプレート）の溶接



(注) 建築基準法に基づき認定（構造用及び耐火構造用）を受けた合成床版用デッキプレートの取付け方法は、認定時の添付資料「標準仕様書」による。

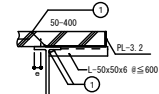
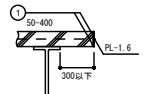
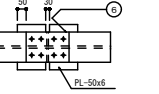
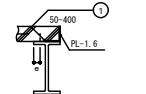
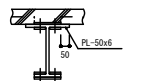
受梁へのかり寸法および端部処理



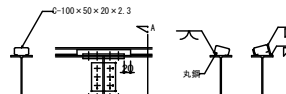
スラブ端部の補足材



補足受材



(e) 折板受材

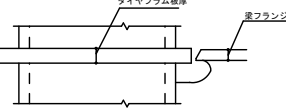


(i) 一般の場合

(ii) 勾配のある場合

(f) 柱梁接合部

ダイヤフラム板厚は、取り付く梁フランジの最大幅より2サイズアップ以上とする。特記なき限り2サイズアップとは、以下の通りとする。



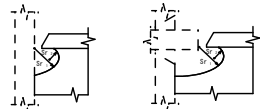
ダイヤフラム板厚 (mm)	9	12	16	19	22	25
梁フランジ最大幅	6~8	9~11	12~15	16~18	19~21	

ダイヤフラム板厚 (mm)	28	32	36	40
梁フランジ最大幅	2~24	25~27	28~31	32~35

(g) スカラップ

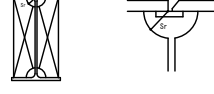
改良型スカラップ

(1) スカラップ半径Srは35mmとする。Snは10mmとする。
(2) スカラップ内部の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合部は滑らかに仕上げる。



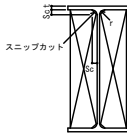
従来型スカラップ

(1) スカラップ半径Srは35mmとする。



(h) スニップカット

(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

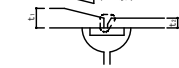


(2) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc$r+2$により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

(i) 溶接部分の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合、又は応力集中による疲労を受ける場合

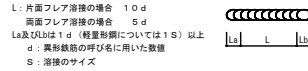


(j) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (°C)
400N級鋼	JIS 2 3211	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS 2 3312	Y6F-11, 15 Y6F-18, 19	40以下	350以下 450以下
	JIS 2 3313	T490Tx-yGA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下 450以下
	JIS 2 3214	引張強さ570N/mm ² 以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS 2 3315	Y6A-50F, 50P	40以下	350以下
	JIS 2 3211	引張強さ570N/mm以上のものを除く	40以下	350以下
490N級鋼	JIS 2 3312	Y6F-11, 15 Y6F-18, 19	40以下	250以下 350以下
	JIS 2 3313	T490Tx-yGA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	40以下	250以下 350以下
	JIS 2 3214	引張強さ570N/mm ² 以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS 2 3315	Y6A-50F, 50P	40以下	350以下
	JIS 2 3312	T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
	JIS 2 3313	Y6F-11, 15 Y6F-18, 19	30以下	250以下 350以下
520N級鋼	JIS 2 3312	T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
	JIS 2 3313	Y6F-11, 15 Y6F-18, 19	30以下	250以下 350以下
	JIS 2 3312	T490Tx-yGA-U T490Tx-yMA-U	40以下	250以下
	JIS 2 3313	Y6F-11, 15 Y6F-18, 19	40以下	250以下 350以下
	JIS 2 3312	T550Tx-yGA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下
	JIS 2 3313	Y6F-11, 15 Y6F-18, 19	30以下	250以下 350以下

1-5 重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ（L）は、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

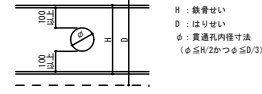


1-6 梁貫通孔補強

(a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ材に貫通孔を設ける場合は、次による。

- (1) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せい1/2以下かつ鉄筋コンクリートませい1/3以下とする。
- (2) 貫通孔間隔は、鋼骨の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度（単位：mm）

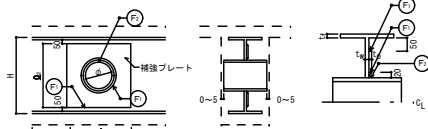


(b) 貫通孔の補強方法は、構造図による。

- (1) 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法

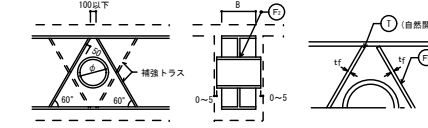
- (1) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
- (2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工工後考慮して小さくすることもできる。



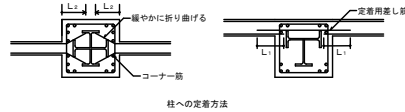
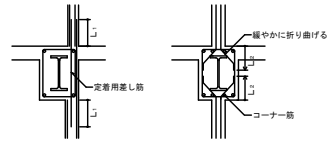
φは3φまたはφのうち小さい方とする。（φ≧Hとする）
a：材種と補強プレートの間隔

補強トラス法

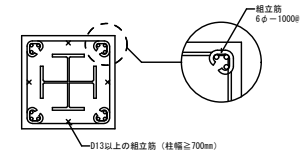
- (1) スリープの取付けは、全周隅角溶接とする。



1-7 壁筋の周辺部材への定着

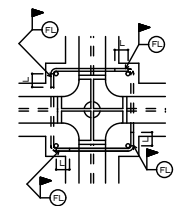


1-8 柱組立筋



1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。

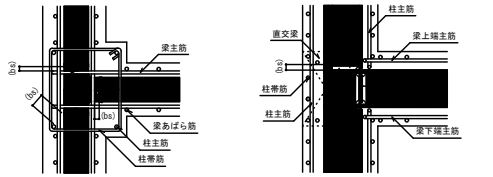


1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

(a) 鉄筋貫通孔の径 鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

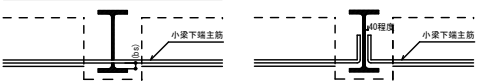
鉄筋の呼び名	D10	D12	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

(b) 鉄筋貫通孔の位置 鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合

小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



(注)：主筋と平行する鉄骨とのあき

1-11 広幅平鋼の取り扱いについて

- (a) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、丸鼻記号でもFB又は孔とする。
- (b) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

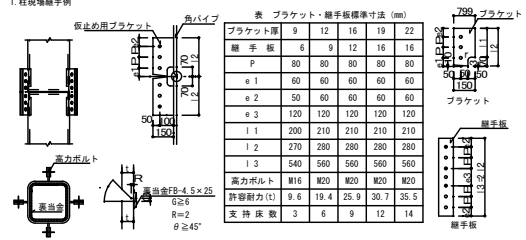
幅	厚さ															
	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40	45	50	55	60	
100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
450	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

1-12 普通ボルト接合

もや、鋼線鋼の取付用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

1-13 柱の継手

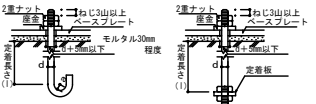
1. 柱現場継手例



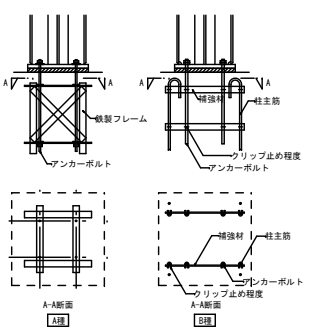
1-14 アンカーボルト

1. 一般事項

- (a) アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準面に正しく合わせ、適切な機軸などで正確に行う。
- (b) ベースフレートのボルト穴の径は、ボルトの径に5mmを加えた大きさ以下とする。
- (c) ボルトは、二重ナット及び緩金を用い、ボルトの先端は、ねじがナットの外に3山以上出るようにする。
- (d) アンカーボルトにせん断力を負担させる場合は、下図を標準とする。
- (e) アンカーボルトは、特記なき限りBR400又はBR490を使用する。(転造ネジ)



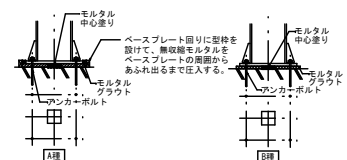
例: アンカーボルト長さL=600とは定増長さ(1)の部分を含む。



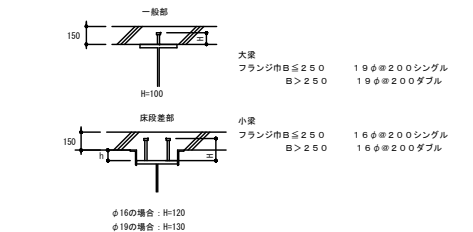
13.2図 アンカーボルトの保持及び埋め込み

1-15 ベースフレートの保持

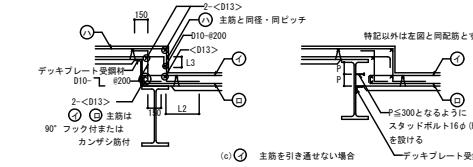
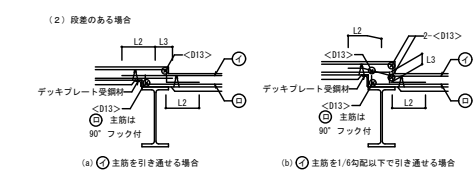
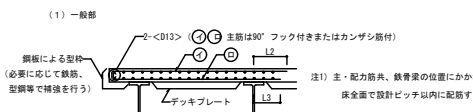
- (a) 柱底均し鉄板の厚さは、特記なき限りA種の場合50mm、B種の場合30mmとする。
- (b) 特記がなければ、A種とする。
- (c) 柱底均し鉄板は、無収縮鉄板とする。



1-16 スタッドボルト

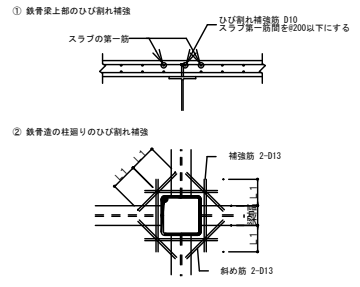


コンクリートスラブと鉄骨梁との取合い (箇中<D13>はD13かつスラブ主筋径以上を示す)



注) A は梁筋<D13>とバースサポートを示す。

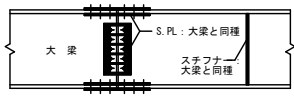
1-17 鉄骨造の場合のひび割れ補強



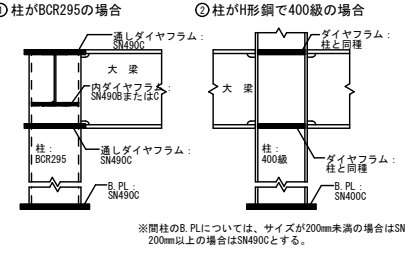
1-18 部材接合部の鋼材の材質について

設計図書に特記のない場合、以下の材質を使用する。

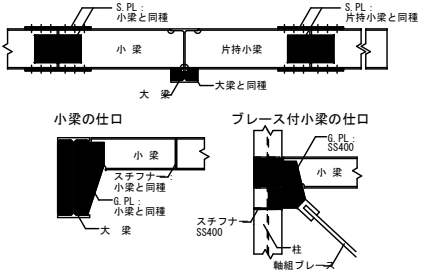
(1) 大梁継手



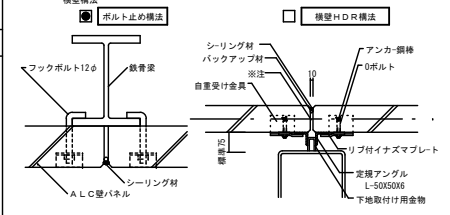
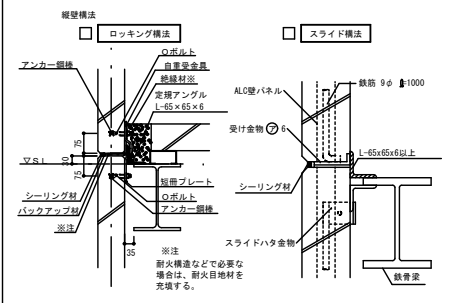
(2) 柱、ダイヤフラム、柱脚



(3) 小梁、継手、仕口

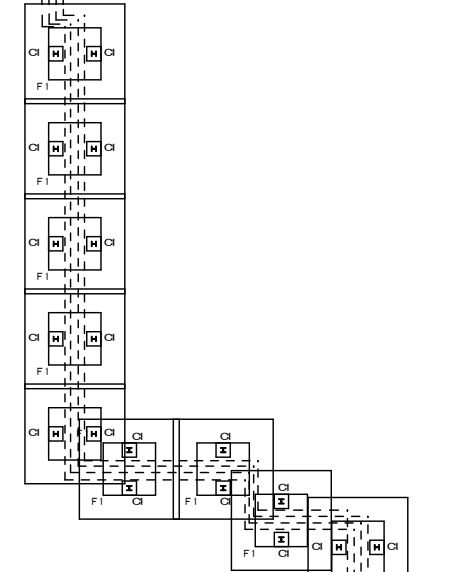
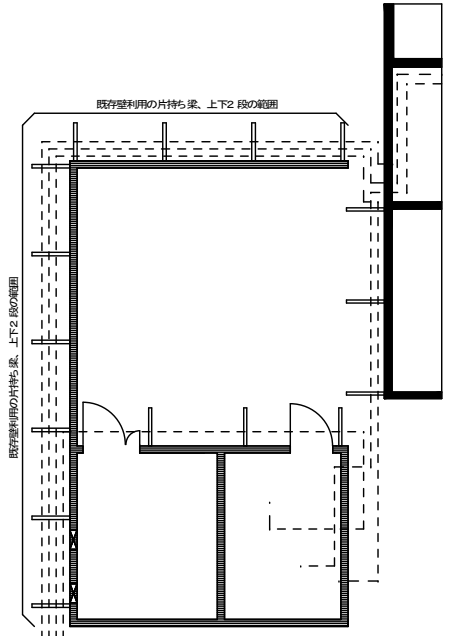


1-19 ALC板取付要領



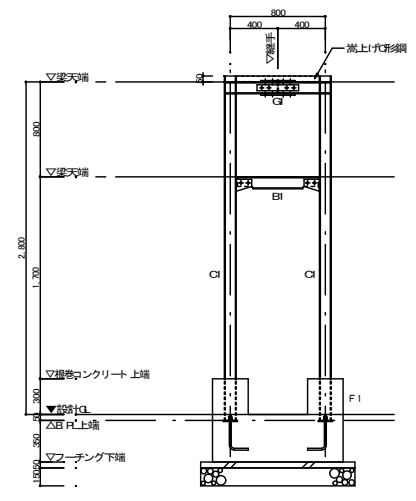
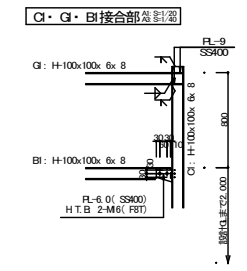
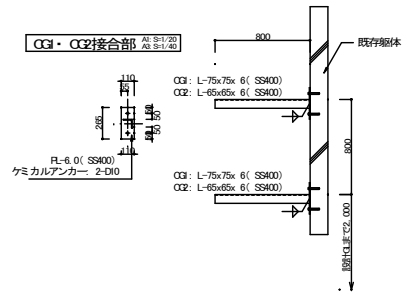
工事名	21精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事	管理棟	棟目	和興
設計	R03_03	一般建築士登録番号	200667号	
監理	構造関係共通事項(7)	従事する建築士		
設計者	S-09	一般建築士登録番号	特	
代表取締役	三原 富男	一般建築士登録番号	89479	
本社	東京都中央区新富1-5-1番1号	TEL	03(522)0332	
埼玉事務所	埼玉県春日部市1-5-0-1番1号	TEL	048(527)0118	
代表取締役	元田 基次	一般建築士登録番号	12749	
二級建築士登録番号	12749			

本部長	管理幹	主幹	主査	担当



設備架上台前記図 A1-S11702
A2-S11700

共通事項
 特記なき限り、溶融亜鉛メッキとし、鋼材 S400、ボルト・F8T とする。
 支持スパンは2,000mm以内とすること。
 長期耐力力は、50kN/㎡以上とする。



面内管架上台前記図 A1-S11702
A2-S11700

共通事項
 特記なき限り、溶融亜鉛メッキとし、鋼材 S400、ボルト・F8T とする。
 支持スパンは2,000mm以内とすること。
 長期耐力力は、50kN/㎡以上とする。

鉄骨部材リスト 特記なき限り、溶融亜鉛メッキとし、鋼材 S400、ボルト・F8T とする。

符号	部材	備考
【自立架台】		
CI	H-100x100x 6x 8	
GI	H-100x100x 6x 8	
BI	H-100x100x 6x 8	
端上げ片形鋼	Q-100x50x20x2.3	S400
【既存壁利用】		
CI	L-75x75x 6 #2000以内	配管が本以上の箇所
CC2	L-65x65x 6 #2000以内	配管が本以下の箇所

縦手・仕口リスト 発注図

SIGN	CI
MEMBER	H-100x100x 6x 8 (S400)
FORM	
H.T.B (F8T)	FLATE (S400)
FLANCE	16-M6 SF-1 2F-12x100x290
WEB	4-M6 SF-2 2F-9x 50x350

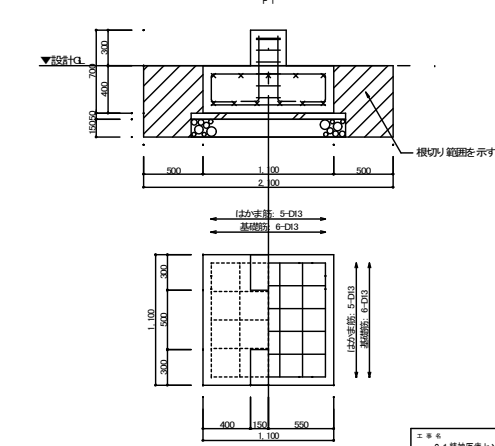
柱脚リスト 発注図

符号	CI
部材	H-100x100x 6x 8 (S400)
柱脚	
ベースプレート	FL-12.0x160x120 (S400)
アンカーボルト	2-M6 (S400) ダブルナット 定着長さL-320

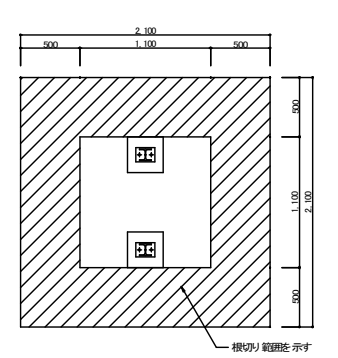
ポスト柱リスト 発注図

符号	CI
断面	
鉄骨断面	H-100x100x 6x 8
B x D	300x300
立上り筋	4-D16
フープ筋	□-D1.3#100
アンカーボルト	2-M6 (S400)
備考	四隅クック・トップ筋ダブル

基礎リスト 発注図



根切り前用図 発注図



本部長	管理幹	主幹	主査	担当

工事名 21 精神医療センター災害拠点精神科病院施設整備機械設備工事 R02045

管理棟 棟 和田 和 興

図名 設備架台 構造図 (1) 図番 R03_03

設計 藤田 隆 一級建築士事務所 03-6700-0700

監理 藤田 隆 一級建築士事務所 03-6700-0700

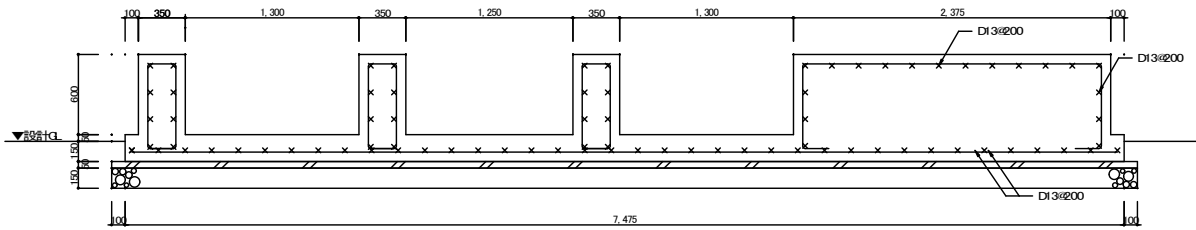
株式会社 フタダ設計 図番 S-10

代表取締役 三宅 嘉男 一級建築士事務所 03-6473-0300

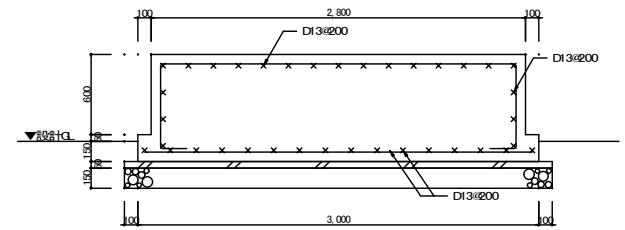
代表取締役 元田 真次 一級建築士事務所 03-6522-8923

代表取締役 元田 真次 一級建築士事務所 03-6522-8923

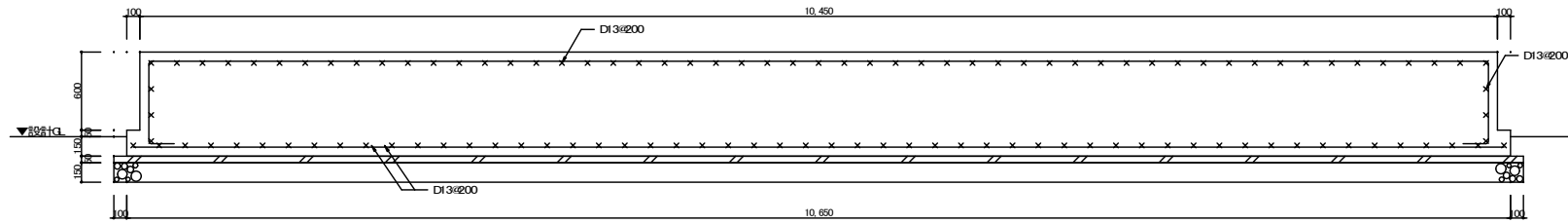
代表取締役 元田 真次 一級建築士事務所 03-6522-8923



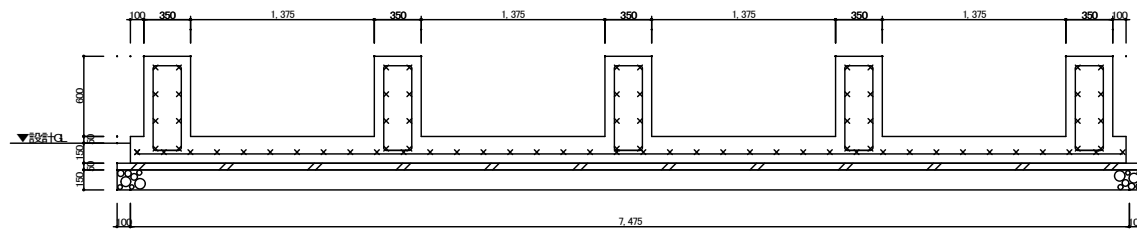
受水槽(30m³) 基礎筋筋要領図1 表S11(2)



受水槽(30m³) 基礎筋筋要領図2 表S11(2)

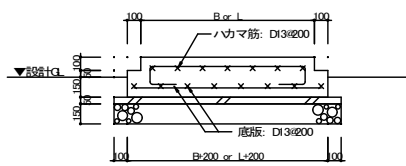


受水槽(150m³) 基礎筋筋要領図1 表S11(2)



受水槽(150m³) 基礎筋筋要領図2 表S11(2)

井戸設備機器基礎筋筋要領図(共通) 表S11(2)



井戸設備機器基礎リスト サイズおよび配筋は意匠図による。

番号	数量	基礎サイズ			底版× Y方向共	ノカマ筋
		H	B	L		
①	1	300	1,300	1,300	DI 3 φ200	DI 3 φ200
②	2	300	950	950	DI 3 φ200	DI 3 φ200
③	4	300	300	1,300	DI 3 φ200	DI 3 φ200
④	1	300	700	2,450	DI 3 φ200	DI 3 φ200
*	1	300	500	600	DI 3 φ200	DI 3 φ200
⑥	1	300	900	900	DI 3 φ200	DI 3 φ200
⑦	1	300	1,000	1,400	DI 3 φ200	DI 3 φ200
⑧	1	300	500	600	DI 3 φ200	DI 3 φ200

共通事項
長期耐力力は、50kN/m²以上とする。

本部長	管理幹	主幹	主査	担当

工事名 21精神医療センター災害拠点精神科病院施設設備機械設備工事	図番 R02045	管理技師 藤田和典 一般技師登録番号 200667号
設備基礎 構造図(2)	設計 R03_03	一般技師登録番号
株式会社 フクタ設計	図面No. S-11	一般技師登録番号
代表取締役 三原 富男 一般技師登録番号 8947号	本 図	一般技師登録番号
本社 東京都中央区新富1丁目1番1号 TEL 03(522)9333	製 図	元田 草次 一般技師登録番号 12749号
埼玉事務所 埼玉県春日部市1-5-1番1号 TEL 048(527)0118		